

対象校No. 641
注4

学校コード F114310104883
注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 学部の学科の設置
注1

認可

注2
湘南医療大学 薬学部 医療薬学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人湘南ふれあい学園
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	事務部
職名・氏名	シムブチョウ コバヤカツイチロウ 事務部長 小林勝一郎
電話番号	045-821-0111
(夜間)	070-5554-5864
e-mail	pharm@sums.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

薬学部

<医療薬学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	8
3. 施設・設備の整備状況、経費	21
4. 既設大学等の状況	23
5. 教員組織の状況	24
6. 附帯事項等に対する履行状況等	43
7. その他全般的事項	60

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人湘南ふれあい学園

(2) 大学名

湘南医療大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒244-0806 神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-10
(本部：〒244-0806 神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	オオヤシキ フジエ 大屋敷 芙志枝 (平成6年4月)		
学長	オオヤシキ フジエ 大屋敷 芙志枝 (平成27年4月)		
学部長	スズキ ツトム 鈴木 勉 (令和3年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
令和6年度に報告する内容 → (6)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに入力してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学生定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
薬学部 医療薬学科 学士(薬学)	薬学関係	6 年	130 人	2年次 人 3年次 人 4年次 人	780 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	130人 () []											
志願者数	() []	() []	() []	() []	111 () []	() []	192 () []	() []	243 () []	() []	151 () []	() []				
受験者数	() []	() []	() []	() []	91 () []	() []	149 (3) []	() []	230 (3) []	() []	144 (2) []	() []		0.43倍		倍
合格者数	() []	() []	() []	() []	58 () []	() []	134 (3) []	() []	196 (3) []	() []	142 (2) []	() []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	34 () []	() []	66 (3) []	() []	78 (1) []	() []	62 (1) []	() []				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	0.26		0.50		0.60		0.47					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期は「-」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
- ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 報告年度に「春季入学以外の学期区分が設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分」という区別を「春季入学以外の学期区分」として記入してください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・ なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
- ・ なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
- ・ 「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	[] ()	[-] (2)	[] ()	[-] (4)	[] ()	[-] (3)	[] ()	編入学生の人数 令和4年度 2年次：33名の内3名 令和5年度 2年次：61名の内1名 3年次：27名の内2名 令和6年度 3年次：54名の内1名 4年次：27名の内2名
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	[] ()	[-] (4)	[] ()	[-] (8)	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	[] ()	[-] (3)	
4年次	/				/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	
5年次			/				/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
6年次	/				/				[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
計			- [-] (-)	- [-] (-)			34 [] ()	101 [] (2)	171 [] (8)	227 [] (14)			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留學生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学生数、留學生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	34 人	2 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	2 人	0 人	海外留学(1人)、学生個人の心身に関する事情(1名)
令和4年度	101 人	9 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	1 人	0 人	修学意欲の低下(1人)
			令和4年度	8 人	0 人	除籍(1人)、経済的困窮(3人)、進路変更(3人)、心身耗弱(1人)
令和5年度	171 人	6 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	1 人	0 人	進路変更(1人)
			令和4年度	1 人	0 人	進路変更(1人)
			令和5年度	4 人	0 人	進路変更(4人)
令和6年度	227 人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	※増子、遠藤の算入はどのように？
合 計		17 人		17 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{34} = \boxed{5.88} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{9}{101} = \boxed{8.91} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{6}{171} = \boxed{3.5} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{227} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<薬学部 医療薬学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	総合英語ⅠA	1前	1			1					兼2
	総合英語ⅠB	1後	1			1					兼2
	総合英語ⅡA	2前	1			1					兼2
	総合英語ⅡB	2後	1			1					兼2
	総合英語Ⅲ	5前・後 ・6前	1			1					兼1
	英会話A	3前	1			1					兼1
	英会話B	3後	1			1					兼1
	英語Ⅰ(基礎英語)	1前		1							兼1
	英語Ⅱ(医療英語)	2前		1							兼1
	英語Ⅲ(コミュニケーション)	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	コミュニケーション論	1前		1							兼1
	チーム医療論	6後		1		17	9	8	8	0	兼62
	文学	1・2・3後		1							兼1
	教育学	1・2・3後		1							兼1
	文化人類学	1・2・3前		1							兼1
	国際関係論	1・2・3前		1							兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1							兼1
	音楽論	1・2・3後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
薬と毒性学入門	1後		1		1					兼1	
障害者スポーツ	1前・後		1							兼1	
レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1	
症候論	1後		2		2					兼5	
社会福祉論	2後		1							兼1	
情報リテラシー	1前		1							兼1	
研究法入門	1後		2							兼1	
環境論	1前		1							兼1	
法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1	
放射線概論	1後		1							兼1	
保健行政論	2前		1							兼1	
公衆衛生学	2前		1		1			1		兼1	
倫理学	1前		1							兼1	
心理学	1前		2							兼1	
哲学	1後		1							兼1	
社会学	1後		2							兼1	
発達心理学	1後		1							兼1	
ボランティア学	1後		1							兼1	
生命倫理学	1後		1							兼1	
ジェンダー論	1後		1							兼1	
小計(41科目)	-		15	32	0	17	10	8	8	0	兼85
基礎科目	科学計算演習	1前	1			1		1			兼1
	科学英語	4前	1				1				兼1
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	1	1	0	0	兼1
専門科目	薬学入門Ⅰ(薬剤師の使命)	1前	1			1					
	薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学)	1前	1			3	1				
	早期臨床体験実習	1前	1			8	2	4	1		
	生命・医療倫理学	1前	2								兼1
	臨床心理学	1後	1								兼1
	薬事関係法規・薬事制度	4前	1								兼1
	薬剤経済学	4後	1			1					
	後期臨床体験実習	5通	1			7	2	5			
	日本薬局方	4後	1			1	2				
	小計(9科目)	-	10	0	0	9	3	5	1		兼3

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	総合英語ⅠA	1前	1							1	兼1
	総合英語ⅠB	1後	1							1	兼1
	総合英語ⅡA	2前	1							1	兼1
	総合英語ⅡB	2後	1							1	兼1
	総合英語Ⅲ	5前・後 ・6前	1							1	兼1
	英会話A	3前	1							1	兼1
	英会話B	3後	1							1	兼1
	英語Ⅰ(基礎英語)	1前		1						1	兼1
	英語Ⅱ(医療英語)	2前		1							兼1
	英語Ⅲ(コミュニケーション)	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	コミュニケーション論	1前		1						1	兼1
	チーム医療論	6後		1		17	9	8	8		兼62
	文学	1・2・3前		1							兼1
	教育学	1・2・3後		1							兼1
	文化人類学	1・2・3前		1							兼1
	国際関係論	1・2・3前		1							兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1							兼1
	音楽論	1・2・3後		1							兼1
	栄養学	1前		2							兼1
薬と毒性学入門	1後		1		1					兼1	
障害者スポーツ	1前・後		1							兼1	
レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1	
症候論	1後		2		2					兼5	
社会福祉論	2後		1							兼1	
情報リテラシー	1前		1							兼1	
研究法入門	1後		2							兼1	
環境論	1前		1							兼1	
法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1	
放射線概論	1後		1							兼1	
保健行政論	2前		1							兼2	
公衆衛生学	2前		1						1	兼1	
倫理学	1前		1							兼1	
心理学	1前		2							兼1	
哲学	1後		1							兼1	
社会学	1後		2							兼1	
発達心理学	1後		1							兼1	
ボランティア学	1後		1							兼1	
生命倫理学	1後		1							兼1	
ジェンダー論	1後		1							兼1	
小計(41科目)	-		15	32	0	17	10	8	8	0	兼85
基礎科目	科学計算演習	1前	1			1		1		1	
	科学英語	4前	1				1			1	
	小計(2科目)	-	2	0	0	1	1	1	0	0	
専門科目	薬学入門Ⅰ(薬剤師の使命)	1前	1			1					
	薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学)	1前	1			3	1				
	早期臨床体験実習	1前	1			8	2	4	1		
	生命・医療倫理学	1前	2								兼1
	臨床心理学	1後	1								兼1
	薬事関係法規・薬事制度	4前	1								兼1
	薬剤経済学	4後	1			1					
	後期臨床体験実習	5通	1			7	2	5			
	日本薬局方	4後	1			1	2				
	小計(9科目)	-	10	0	0	9	3	5	1		兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	化学系基礎科学	1前	2					1				
	化学系実習	1後	1			2		2				
	物理系基礎科学	1前	2			1						
	物理化学Ⅰ	1後	2			1						
	分析化学Ⅰ	1後	2			1						
	生物系基礎科学	1前	2				1		1			
	生物系実習	1後	2				1	1	1			
	生化学Ⅰ	1後	2				1		1			
	解剖学	1後	2				1					
	物理化学Ⅱ	2前	2				1					
	分析化学Ⅱ	2前	2				1		1			
	分析化学実習	2前	1				1		1			
	有機化学Ⅰ	2前	2				1					
	生化学Ⅱ	2前	2				1		1			
	生化学実習	2前	1				1	1	1			
	生理学	2前	2				1	1				
	微生物学Ⅰ	2前	2				2					
	物理化学Ⅲ	2後	2				1					
	物理化学実習	2後	1				1		1		1	
	有機化学Ⅱ	2後	2				1					
	有機化学実習	2後	1				2		2			
	天然薬物学	2後	2					1				
	生化学Ⅲ	2後	2					1		1		
	生理解剖学実習	2後	1				1	1				兼1
	微生物学Ⅱ	2後	2				2	1				
	免疫学Ⅰ	2後	2				2	1				
	分析化学Ⅲ	3前	2				1		1			
	分析化学Ⅳ	3前	1				1					
	有機化学Ⅲ	3前	2				1					
	天然薬物学実習	3前	1					1		1		
	微生物学実習	3前	1				2	1	1	1		
	免疫学Ⅱ	3前	1				1	1				
	生化学Ⅳ	3後	1					1		1		
	アドバンスド生物化学	3・6前		1				1				兼1
	香粧品科学	4・6前		1								兼1
	腫瘍生物学	4・6後		1			1	1				
	感染制御学	6前		1			1	1				
小計(37科目)	-		53	4	0	8	5	4	3	1	兼2	
放射化学	2後	2					1					
機能食品学	2・6後			1							兼1	
衛生化学Ⅰ	3前	2					1		1			
医療統計学	3前	1					1					
衛生化学Ⅱ	3後	2					1		1			
衛生化学実習	3後	1					1		1			
衛生化学Ⅲ	4前	2					1					
小計(7科目)	-		10	1	0	1	1	0	1	0	兼1	
薬理学Ⅰ	2後	2					1		1			
薬理学Ⅱ	3前	2					1	1	1			
薬物治療学Ⅰ	3前	2					1		1			
薬理学実習	3前	1					1		1	1		
薬物動態学Ⅰ	3前	2					1					
薬剤学Ⅰ	3前	2					2		2			
薬物治療学Ⅱ	3後	2					2					
薬物動態学Ⅱ	3後	2					2		2			
薬剤学Ⅱ	3後	2					2		2			
病理学概論	4前	2					2				兼7	
症候・診断学	4前	2					1				兼4	
処方解析演習	4前	1					9	5	3	4		
薬物治療学Ⅲ	4前	2					1		1			
医薬品開発学	4前	2					1					
医療安全管理	4前	1					1					
創薬化学	4・6前		1				1		1			
医薬品情報学	4後	2					1					
薬物治療学Ⅳ	4後	2					3		3			
薬物治療学Ⅴ	4後	2					4		4	1		
漢方治療学	6前	2					2				兼1	
レギュラトリーサイエンス	6前	2					1					
薬物治療学Ⅵ	6後	2					3		3			
小計(22科目)	-		39	1	0	11	6	5	4	0	兼9	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	化学系基礎科学	1前	2						1			
	化学系実習	1後	1						2		2	
	物理系基礎科学	1前	2						1			
	物理化学Ⅰ	1後	2						1			
	分析化学Ⅰ	1後	2						1			
	生物系基礎科学	1前	2							1		1
	生物系実習	1後	1							1	1	1
	生化学Ⅰ	1後	2							1		1
	解剖学	1後	2							1		1
	物理化学Ⅱ	2前	2							1		
	分析化学Ⅱ	2前	2							1		1
	分析化学実習	2前	1							1		1
	有機化学Ⅰ	2前	2							1		
	生化学Ⅱ	2前	2								1	1
	生化学実習	2前	1								1	1
	生理学	2前	2							1	1	
	微生物学Ⅰ	2前	2							2		
	物理化学Ⅲ	2後	2							1		
	物理化学実習	2後	1							1		1
	有機化学Ⅱ	2後	2							1		
	有機化学実習	2後	1							2		2
	天然薬物学	2後	2								1	
	生化学Ⅲ	2後	2								1	
	生理解剖学実習	2後	1							1	1	
	微生物学Ⅱ	2後	2							2	1	
	免疫学Ⅰ	2後	2							2	1	
	分析化学Ⅲ	3前	1								1	
	分析化学Ⅳ	3前	1								1	
	有機化学Ⅲ	3前	2							1		
	天然薬物学実習	3前	1								1	
	微生物学実習	3前	1							2	1	1
	免疫学Ⅱ	3前	1							1	1	
	生化学Ⅳ	3後	1								1	1
	アドバンスド生物化学	3・6前			1						1	
	香粧品科学	4・6前			1							兼2
	腫瘍生物学	4・6後			1						2	
	感染制御学	6前			1					1	1	
小計(37科目)	-		53	4	0	8	5	4	3	0	兼3	
放射化学	2後	2							1			
機能食品学	2・6後			1							兼1	
衛生化学Ⅰ	3前	2							1		1	
医療統計学	3前	1							1			
衛生化学Ⅱ	3後	2							1		1	
衛生化学実習	3後	1							1		1	
衛生化学Ⅲ	4前	2							1			
小計(7科目)	-		10	1	0	1	1	0	1	0	兼1	
薬理学Ⅰ	2後	2							1	1		
薬理学Ⅱ	3前	2							1	1	1	
薬物治療学Ⅰ	3前	2							1		1	
薬理学実習	3前	1							1		1	
薬物動態学Ⅰ	3前	2								1		
薬剤学Ⅰ	3前	2								2		
薬物治療学Ⅱ	3後	2							2			
薬物動態学Ⅱ	3後	2								2		
薬剤学Ⅱ	3後	2								2		
病理学概論	4前	2							2		兼4	
症候・診断学	4前	2							2		兼4	
処方解析演習	4前	1							10	4	2	
薬物治療学Ⅲ	4前	2							1	1	3	
医薬品開発学	4前	2								1		
医療安全管理	4前	1							1			
創薬化学	4・6前			1					1		1	
医薬品情報学	4後	2							1			
薬物治療学Ⅳ	4後	2							3			
薬物治療学Ⅴ	4後	2							4	1	1	
漢方治療学	6前	2									兼1	
レギュラトリーサイエンス	6前	2								1		
薬物治療学Ⅵ	6後	2							3			
小計(22科目)	-		39	1	0	12	7	4	3	0	兼8	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	2前	1			8	3	3	2		
	調剤学	3後	2			1	1	1			
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1			7	5	4	4		
	看護論	3後	1								兼1
	総合リハビリテーション論	3後	1								兼1
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2			7	5	4	4		
	医療薬学チュートリアル演習Ⅱ	4前	1			1		2			兼1
	臨床栄養学	4前		1		1					兼1
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2			7	5	4	4		
	コミュニティーファーマシー	4後	1				1				
	ファーマシーマネジメント論	4・6前		1							兼1
	薬局実務実習	5通	10			6	5	4	4		
	病院実務実習	5通	10			8	4	4	5		
	地域包括医療論(在宅医療を含む)	6前	1				1				
	セルフメディケーション老年学	6前	1				1				
	6前	1									兼1
小計(16科目)	-	35	2	0	17	9	8	8	0	兼6	
薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用)	3通~4前	2			17	9	8	8	1		
4後~5通	12				17	9	8	8	1		
卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)	6前	4			17	9	8	8	1		
総合演習Ⅰ	6前	2			7	5	4	4	1	兼1	
総合演習Ⅱ	6後	2			8	4	4	4			
1人1テーマの卒業研究(課題解決型薬学研究・発展)	4・5・6通			1	1						
小計(6科目)	-	22	0	1	17	9	8	8	1	兼1	
合計(140科目)	-	186	40	1	17	10	8	8	1	兼104	
卒業要件及び履修方法											
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上(必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上(必修科目169単位、選択科目3単位以上)を履修し、合計195単位以上を取得していること。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	2前	1			9	2	3	2		
	調剤学	3後	2			1	1	1			
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1			10	5	3	3		
	看護論	3後	1								兼1
	総合リハビリテーション論	3後	1								兼1
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2			10	5	3	3		
	医療薬学チュートリアル演習Ⅱ	4前	1			1	1	2			兼1
	臨床栄養学	4前		1		1					兼1
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2			8	5	3	3		
	コミュニティーファーマシー	4後	1				1				
	ファーマシーマネジメント論	4・6前		1							兼1
	薬局実務実習	5通	10			6	5	4	4		
	病院実務実習	5通	10			8	4	4	5		
	地域包括医療論(在宅医療を含む)	6前	1				1				
	セルフメディケーション老年学	6前	1				1				
	6前	1									兼1
小計(16科目)	-	35	2	0	17	9	8	8	0	兼6	
薬学総合ブレ研究 卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用)	3通~4前	2			18	9	7	7			
4後~5通	12				18	9	7	7			
卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)	6前	4			17	9	8	8	1		
総合演習Ⅰ	6前	2			7	5	4	4	1	兼1	
総合演習Ⅱ	6後	2			8	4	4	4			
1人1テーマの卒業研究(課題解決型薬学研究・発展)	4・5・6通			1	1						
小計(6科目)	-	22	0	1	18	9	7	7	1	兼1	
合計(140科目)	-	186	40	1	18	9	7	7	1	兼106	
卒業要件及び履修方法											
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上(必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上(必修科目169単位、選択科目3単位以上)を履修し、合計195単位以上を取得していること。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))											

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	総合英語ⅠA	1前	1			1					兼2
	総合英語ⅠB	1後	1			1					兼2
	総合英語ⅡA	2前	1			1					兼2
	総合英語ⅡB	2後	1			1					兼2
	総合英語Ⅲ	5前・後 6前	1			1					兼1
	英会話A	3前	1			1					兼1
	英会話B	3後	1			1					兼1
	英語Ⅰ(基礎英語)	1前		1		1					兼1
	英語Ⅱ(医療英語)	2前		1							兼1
	英語Ⅲ(コミュニケーション)	2後		1							兼1
	中国語	1前		1							兼1
	韓国語	1後		1							兼1
	コミュニケーション論	1前	1								兼1
	チーム医療論	6後	1			17	9	8	8	0	兼62
	文学	1・2・3前		1							兼1
	教育学	1・2・3後		1							兼1
	文化人類学	1・2・3前		1							兼1
	国際関係論	1・2・3前		1							兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1							兼1
	音楽論	1・2・3後		1							兼1
栄養学	1前		2							兼1	
薬と毒性学入門	1後		1		1					兼1	
障害者スポーツ	1前・後		1							兼1	
レクリエーションスポーツ	1前・後		1							兼1	
症候論	1後	2			2					兼4	
社会福祉論	2後	1								兼1	
情報リテラシー	1前		1							兼1	
研究法入門	1後	2								兼1	
環境論	1前		1							兼1	
法学(含日本国憲法)	1前		2							兼1	
放射線概論	1後		1							兼1	
保健行政論	2前		1							兼2	
公衆衛生学	2前		1		1			1		兼1	
倫理学	1前		1							兼1	
心理学	1前		2							兼1	
哲学	1後		1							兼1	
社会学	1後		2							兼1	
発達心理学	1後		1							兼1	
ボランティア学	1後		1							兼1	
生命倫理学	1後		1							兼1	
ジェンダー論	1後		1							兼1	
小計(41科目)	-		15	32	0	17	10	8	8	0	兼85
基礎科目	科学計算演習	1前	1			1		1			兼1
	科学英語	4前	1				1				兼1
小計(2科目)	-		2	0	0	1	1	1	0	0	兼1
専門科目	薬学入門Ⅰ(薬剤師の使命)	1前	1			1					兼1
	薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学)	1前	1			2	1				兼1
	早期臨床体験実習	1前	1			10	5	6	3		兼1
	生命・医療倫理学	1前	2								兼1
	臨床心理学	1後	1								兼1
	薬事関係法規・薬事制度	4前	1								兼1
	薬剤経済学	4後	1			1					兼1
	後期臨床体験実習	5通	1			7	2	5			兼1
	日本薬局方	4後	1			1	2				兼1
	小計(9科目)	-		10	0	0	11	5	7	3	兼5

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	総合英語ⅠA	1前	1							1		兼2
	総合英語ⅠB	1後	1							1		兼2
	総合英語ⅡA	2前	1							1		兼2
	総合英語ⅡB	2後	1							1		兼2
	総合英語Ⅲ	5前・後 6前	1							1		兼1
	英会話A	3前	1							1		兼1
	英会話B	3後	1							1		兼1
	英語Ⅰ(基礎英語)	1前		1								兼1
	英語Ⅱ(医療英語)	2前		1								兼1
	英語Ⅲ(コミュニケーション)	2後		1								兼1
	中国語	1前		1								兼1
	韓国語	1後		1								兼1
	コミュニケーション論	1前	1									兼1
	チーム医療論	6後	1			17	9	8	8	0		兼62
	文学	1・2・3前		1								兼1
	教育学	1・2・3後		1								兼1
	文化人類学	1・2・3前		1								兼1
	国際関係論	1・2・3前		1								兼1
	国際保健医療論	1・2・3後		1								兼1
	音楽論	1・2・3後		1								兼1
栄養学	1前		2								兼1	
薬と毒性学入門	1後		1		1						兼1	
障害者スポーツ	1前・後		1								兼1	
レクリエーションスポーツ	1前・後		1								兼1	
症候論	1後	2						2			兼4	
社会福祉論	2後	1									兼1	
情報リテラシー	1前		1								兼1	
研究法入門	1後	2									兼1	
環境論	1前		1								兼1	
法学(含日本国憲法)	1前		2								兼1	
放射線概論	1後		1								兼1	
保健行政論	2前		1								兼1	
公衆衛生学	2前		1						1	1	兼1	
倫理学	1前		1								兼1	
心理学	1前		2								兼1	
哲学	1後		1								兼1	
社会学	1後		2								兼1	
発達心理学	1後		1								兼1	
ボランティア学	1後		1								兼1	
生命倫理学	1後		1								兼1	
ジェンダー論	1後		1								兼1	
小計(41科目)	-		15	32	0	17	10	8	8	0	兼85	
基礎科目	科学計算演習	1前	1			1		1		1		兼1
	科学英語	4前	1				1					兼1
小計(2科目)	-		2	0	0	1	1	1	0	0	兼1	
専門科目	薬学入門Ⅰ(薬剤師の使命)	1前	1			1						兼1
	薬学入門Ⅱ(薬と病気の科学)	1前	1			2	1					兼1
	早期臨床体験実習	1前	1			10	5	6	3			兼1
	生命・医療倫理学	1前	2							4	3	兼1
	臨床心理学	1後	1									兼1
	薬事関係法規・薬事制度	4前	1									兼1
	薬剤経済学	4後	1			1						兼1
	後期臨床体験実習	5通	1			7	2	5				兼1
	日本薬局方	4後	1			1	2					兼1
	小計(9科目)	-		10	0	0	8	3	5	1		兼5

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	化学系基礎科学	1前	2					1				
	化学系実習	1後	1			2		2				
	物理系基礎科学	1前	2			1						
	物理化学Ⅰ	1後	2			1						
	分析化学Ⅰ	1後	2			1						
	生物系基礎科学	1前	2				1		1			
	生物系実習	1後	2				1	1	1			
	生化学Ⅰ	1後	2				1		1			
	解剖学	1後	2			1	1					
	物理化学Ⅱ	2前	2			1						
	分析化学Ⅱ	2前	2			1		1				
	分析化学実習	2前	1			1		1				
	有機化学Ⅰ	2前	2			1						
	生化学Ⅱ	2前	2				1		1			
	生化学実習	2前	1				1	1	1			
	生理学	2前	2			1	1					
	微生物学Ⅰ	2前	2			2						
	物理化学Ⅲ	2後	2			1						
	物理化学実習	2後	1			1		1			1	
	有機化学Ⅱ	2後	2			1						
	有機化学実習	2後	1			2		2				
	天然薬物学	2後	2				1					
	生化学Ⅲ	2後	2				1		1			
	生理解剖学実習	2後	1			1	1					兼1
	微生物学Ⅱ	2後	2			2	1					
	免疫学Ⅰ	2後	2			2	1					
	分析化学Ⅲ	3前	1			1		1				
	分析化学Ⅳ	3前	1			1						
	有機化学Ⅲ	3前	2			1						
	天然薬物学実習	3前	1				1		1			
	微生物学実習	3前	1			2	1	1	1			
	免疫学Ⅱ	3前	1			1	1					
	生化学Ⅳ	3後	1				1		1			
	アドバンスド生物化学	3・6前		1			1					兼1
	香粧品科学	4・6前		1								
	腫瘍生物学	4・6後		1		1	1					
	感染制御学	6前		1		1	1					
小計(37科目)	-		53	4	0	8	5	4	3	1	兼2	
放射化学	2後	2				1					兼1	
機能食品学	2・6後		1									
衛生化学Ⅰ	3前	2				1		1				
医療統計学	3前	1						1			兼1	
衛生化学Ⅱ	3後	2				1		1				
衛生化学実習	3後	1				1		1				
衛生化学Ⅲ	4前	2				1						
小計(7科目)	-		10	1	0	1	1	0	1	0	兼1	
薬理学Ⅰ	2後	2				1		1				
薬理学Ⅱ	3前	2				1	1	1				
薬物治療学Ⅰ	3前	2				1		1				
薬理学実習	3前	1				1		1	1			
薬物動態学Ⅰ	3前	2				1			1			
薬剤学Ⅰ	3前	2				2			2			
薬物治療学Ⅱ	3後	2				2						
薬物動態学Ⅱ	3後	2				2			2			
薬剤学Ⅱ	3後	2				2			2			
病理学概論	4前	2				2					兼7	
症候・診断学	4前	2				1					兼4	
処方解析演習	4前	1				9	5	3	4			
薬物治療学Ⅲ	4前	2				1		1				
医薬品開発学	4前	2				1			1			
医療安全管理	4前	1				1						
創薬化学	4・6前		1			1		1				
医薬品情報学	4後	2				1						
薬物治療学Ⅳ	4後	2				3						
薬物治療学Ⅴ	4後	2				4			2	1		
漢方治療学	6前	2				2					兼1	
レキユフトリサイエンス	6前	2				1						
薬物治療学Ⅵ	6後	2				3						
小計(22科目)	-		39	1	0	11	6	5	4	0	兼9	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	化学系基礎科学	1前	2						1			
	化学系実習	1後	1			2		2				
	物理系基礎科学	1前	2			1						
	物理化学Ⅰ	1後	2			1						
	分析化学Ⅰ	1後	2			1						
	生物系基礎科学	1前	2				1		1			
	生物系実習	1後	1				1	1	1			
	生化学Ⅰ	1後	2				1		1			
	解剖学	1後	2			1	1					
	物理化学Ⅱ	2前	2			1						
	分析化学Ⅱ	2前	2			1		1				
	分析化学実習	2前	1			1		1				
	有機化学Ⅰ	2前	2			1						
	生化学Ⅱ	2前	2				1		1			
	生化学実習	2前	1				1	1	1			
	生理学	2前	2			1	1					
	微生物学Ⅰ	2前	2			2						
	物理化学Ⅲ	2後	2			1						
	物理化学実習	2後	1			1		1			1	
	有機化学Ⅱ	2後	2			1						
	有機化学実習	2後	1			2		2				
	天然薬物学	2後	2				1					
	生化学Ⅲ	2後	2				1		1			
	生理解剖学実習	2後	1			1	1					兼1
	微生物学Ⅱ	2後	2			2	1					
	免疫学Ⅰ	2後	2			2	1					
	分析化学Ⅲ	3前	1			1		1				
	分析化学Ⅳ	3前	1			1						
	有機化学Ⅲ	3前	2			1						
	天然薬物学実習	3前	1				1		1			
	微生物学実習	3前	1			2	1	1	1			
	免疫学Ⅱ	3前	1			1	1					
	生化学Ⅳ	3後	1				1		1			
	アドバンスド生物化学	3・6前		1			1					兼1
	香粧品科学	4・6前		1								
	腫瘍生物学	4・6後		1		1	1					
	感染制御学	6前		1		1	1					
小計(37科目)	-		53	4	0	8	5	4	3	1	兼2	
放射化学	2後	2				1					兼1	
機能食品学	2・6後		1									
衛生化学Ⅰ	3前	2				1		1				
医療統計学	3前	1						1				
衛生化学Ⅱ	3後	2				1		1				
衛生化学実習	3後	1				1		1				
衛生化学Ⅲ	4前	2				1						
小計(7科目)	-		10	1	0	1	1	0	1	0	兼1	
薬理学Ⅰ	2後	2				1		1				
薬理学Ⅱ	3前	2				1	1	1				
薬物治療学Ⅰ	3前	2				1		1				
薬理学実習	3前	1				1		1	1			
薬物動態学Ⅰ	3前	2				1			1			
薬剤学Ⅰ	3前	2				2			2			
薬物治療学Ⅱ	3後	2				2						
薬物動態学Ⅱ	3後	2				2			2			
薬剤学Ⅱ	3後	2				2			2			
病理学概論	4前	2				2					兼7	
症候・診断学	4前	2				1					兼4	
処方解析演習	4前	1				9	5	3	4			
薬物治療学Ⅲ	4前	2				1		1				
医薬品開発学	4前	2				1			1			
医療安全管理	4前	1				1						
創薬化学	4・6前		1			1		1				
医薬品情報学	4後	2				1						
薬物治療学Ⅳ	4後	2				3						
薬物治療学Ⅴ	4後	2				4			2	1		
漢方治療学	6前	2				2					兼1	
レキユフトリサイエンス	6前	2				1						
薬物治療学Ⅵ	6後	2				3						
小計(22科目)	-		39	1	0	11	6	5	4	0	兼9	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	2前	1			7	3	3	2		兼1
	調剤学	3後	2			1	1	1			
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1			9	5	3	2		兼2
	看護論	3後	1								兼1
	総合リハビリテーション論	3後	1								兼1
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2			7	5	4	4		
	医療薬学チュートリアル演習Ⅱ	4前	1			1		2			兼1
	臨床栄養学	4前		1		1					兼1
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2			7	5	4	4		
	コミュニティーファーマシー	4後	1				1				
	ファーマシーマネジメント論	4・6前		1							兼1
	薬局実務実習	5通	10			6	5	4	4		
	病院実務実習	5通	10			8	4	4	5		
	地域包括医療論(在宅医療を含む)	6前	1				1				
	セルフメディケーション老年学	6前	1				1				兼1
	小計(16科目)	-	35	2	0	17	9	8	8	0	兼6
薬学総合ブレ研究卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用)	3通~4前	2			17	9	7	6		兼1	
卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)	4後~5通	12			17	9	8	8	1		
総合演習Ⅰ	6前	4			17	9	8	8	1		
総合演習Ⅱ	6前	2			7	5	4	4	1	兼1	
総合演習Ⅲ	6後	2			8	4	4	4			
インターンシップ実習(課題解決型薬学研究・発展)	4・5・6通			1	1						
小計(6科目)	-	22	0	1	17	9	8	8	1	兼1	
合計(140科目)	-	186	40	1	17	10	8	8	1	兼108	
卒業要件及び履修方法											
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上(必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上(必修科目169単位、選択科目3単位以上)を履修し、合計195単位以上を取得していること。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	医療薬学チュートリアル演習Ⅰ	2前	1			7	3	3	2		兼1
	調剤学	3後	2			1	1	1			
	実務実習事前学習Ⅰ	3後	1			7	5	4	4		兼1
	看護論	3後	1								兼1
	総合リハビリテーション論	3後	1								兼1
	実務実習事前学習Ⅱ	4前	2			7	5	4	4		
	医療薬学チュートリアル演習Ⅱ	4前	1			1		2			兼1
	臨床栄養学	4前		1		1					兼1
	実務実習事前学習Ⅲ	4後	2			7	5	4	4		
	コミュニティーファーマシー	4後	1				1				
	ファーマシーマネジメント論	4・6前		1							兼1
	薬局実務実習	5通	10			6	5	4	4		
	病院実務実習	5通	10			8	4	4	5		
	地域包括医療論(在宅医療を含む)	6前	1				1				
	セルフメディケーション老年学	6前	1				1				兼1
	小計(16科目)	-	35	2	0	17	9	8	8	0	兼6
薬学総合ブレ研究卒業研究Ⅰ(課題解決型薬学研究・基礎と応用)	3通~4前	2			17	9	8	8	1		
卒業研究Ⅱ(課題解決型薬学研究・発展)	4後~5通	12			17	9	8	8	1		
総合演習Ⅰ	6前	4			17	9	8	8	1		
総合演習Ⅱ	6前	2			7	5	4	4	1	兼1	
総合演習Ⅲ	6後	2			8	4	4	4			
インターンシップ実習(課題解決型薬学研究・発展)	4・5・6通			1	1						
小計(6科目)	-	22	0	1	17	9	8	8	1	兼1	
合計(140科目)	-	186	40	1	17	10	8	8	1	兼108	
卒業要件及び履修方法											
卒業要件は、総合教育科目では21単位以上(必修科目15単位及び選択科目6単位以上)、基礎科目は必修科目2単位、専門科目は172単位以上(必修科目169単位、選択科目3単位以上)を履修し、合計195単位以上を取得していること。 (履修科目の登録の上限：46単位(年間))											

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

・教育の充実のため、「早期臨床体験」の教員配置を「教授8、准教授2、講師4、助教1」から「教授7、准教授2、講師4、助教1、兼2」に変更。

【令和4年度】

・配当年次の誤記により、文学を「1・2・3後」から「1・2・3前」に変更。
・専任教員の就任年月の変更のため、「薬学入門Ⅱ」の教員配置を「教授3、准教授1」から「教授2、准教授1、兼1」に変更。
・教育の充実のため、「早期臨床体験」の教員配置を「教授7、准教授2、講師4、助教1」から「教授6、准教授3、講師4、助教3」に変更。
・教育の充実のため、「解剖学」の教員配置を「教授1」から「教授1、准教授1」に変更。

【令和5年度】

・教育の充実のため、「英語Ⅰ（基礎英語）」の専任教員等の配置を「兼1」から「准教授1」に変更。
・教育の充実のため、「薬と毒性学入門」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1、兼1」に変更。
・教員の負荷軽減のため、「保健行政論」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
・教育の充実のため、「早期臨床体験実習」の専任教員等の配置を「教授6、准教授3、講師4、助教3」から「教授10、准教授5、講師6、助教3、兼1」に変更。
・教員の自己都合等により、「物理化学実習」専任教員等の配置のうち「助手1」を「助手0」に変更。
・教員の就任時期の延期により、「医療統計学」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼1」に変更。
・教員の自己都合等により、「薬理学実習」の専任教員等の配置のうち「助教1」を「助教0」に変更。
・教育の充実のため、「実務実習事前学習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授7、准教授5、講師4、助教4」を「教授9、准教授5、講師3、助教2、兼2」に変更。
・教員の自己都合等により、「薬学総合ブレ研究」の専任教員等の配置のうち「講師8、助教8、助手1」を「講師7、助教6、兼1」に変更。

【令和6年度】

・教育の充実のため、「コミュニケーション論」の専任教員等の配置を「兼1」から「教授1」に変更。
・教育の充実のため、「早期臨床体験実習」の専任教員等の配置を「教授10、准教授5、講師6、助教3、兼1」を「教授12、准教授4、講師6、助教3」に変更。
・教育の充実のため、「日本薬局方」の専任教員等の配置を「教授1、准教授2」から「教授2、准教授1」に変更。
・教員の負荷軽減のため、「化粧品科学」の専任教員等の配置を「兼1」から「兼2」に変更。
・教育の充実のため、「腫瘍生物学」の専任教員等の配置を「教授1、准教授1」から「教授2」に変更。
・教員の自己都合等により、「病理学概論」の専任教員等の配置のうち「兼7」を「兼4」に変更。
・教員の負荷軽減のため、「症候・診断学」の専任教員等の配置のうち「教授1」から「教授2」に変更。
・教員の自己都合等により、「処方解析演習」の専任教員等の配置を「教授9、准教授5、講師3、助教4」から「教授10、准教授4、講師2、助教3」に変更。
・教育の充実のため、「薬物治療学Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授1、講師1」から「教授1、准教授1」に変更。
・教育の充実のため、「薬物治療学Ⅴ」の専任教員等の配置を「教授4、講師2、助教1」から「教授4、准教授1、講師1、助教1」に変更。
・教育の就任時期の延期および教員の昇任により、「医療薬学チュートリアル演習Ⅰ」の専任教員等の配置のうち「教授7、准教授3、兼1」を「教授9、准教授2、兼0」に変更。
・教育の充実のため、「実務実習事前学習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授9、准教授5、講師3、助教2、兼2」から「教授10、准教授5、講師3、助教3」に変更。
・教育の充実のため、「実務実習事前学習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授7、准教授5、講師4、助教4」から「教授10、准教授5、講師3、助教3」に変更。
・教員の自己都合等により、「実務実習事前学習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授7、准教授5、講師4、助教4」から「教授8、准教授5、講師3、助教3」に変更。
・教育の充実のため、「薬学総合ブレ研究」の専任教員等の配置を「教授17、准教授9、講師7、助教6、兼1」から「教授18、准教授9、講師7、助教7」に変更。
・教員の自己都合等により、「卒業研究Ⅰ（課題解決型薬学研究・基礎と応用）」の専任教員等の配置を「教授17、准教授9、講師8、助教8、助手1」から「教授18、准教授9、講師7、助教7」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
103 科目	36 科目	1 科目	140 科目	103 科目 []	36 科目 []	1 科目 []	140 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{140} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 湘南医療大学保健医療学 部（必要面積6,600㎡） と共用 自己所有面積26830.02㎡ 借用面積：28288.78㎡ 校舎敷地 6,629.41㎡ 運動場用地 1,252.57㎡ 借用期間： 校舎敷地 平成25年7月から22年9ヶ 月 令和3年4月から30年 運動場用地 平成27年4月から20年 (3) 横浜山手キャンパス設置 に伴う増加(4)
	校 舎 敷 地	64,803.23 ㎡ 53,866.23 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	64,803.23 ㎡ 53,866.23 ㎡	
	運 動 場 用 地	1,252.57 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	1,252.57 ㎡	
	小 計	66,055.80 ㎡ 55,118.80 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	66,055.80 ㎡ 55,118.80 ㎡	
	そ の 他	400.00 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	400.00 ㎡	
	合 計	66,455.80 ㎡ 55,518.80 ㎡	0.00 ㎡	0.00 ㎡	66,455.80 ㎡ 55,518.80 ㎡	
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 湘南医療大学保健医療学 部（必要面積6,753㎡） と共用 ①借用面積：699.70㎡ ①借用期間：平成27年4 月から20年 ②借用面積：1,026.05㎡ ②借用期間：平成31年4 月から20年 大学院専用 51.31㎡ ③借用面積：11,134.27 ㎡ ③借用期間：令和3年4月 から30年間 コロナの影響で校舎建設 が遅れたため 建築等設置計画変更書添 付 (添付資料①)(3) 横浜山手キャンパス設置 に伴う増加(4)
		35,607.98 ㎡ 26,805.46 ㎡ (11,013.46 ㎡) (22,728.85 ㎡) (15,671.19 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	0.00 ㎡ (0.00 ㎡)	35,607.98 ㎡ 26,805.46 ㎡ (11,013.46 ㎡) (22,728.85 ㎡) (15,671.19 ㎡)	
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 ※1室は保健医療学部棟 講義室3と共用 コロナの影響で校舎建設 が遅れたため(3) A C対象学部として算出 (4)
	11 室 32 室 21 室	7 室 26 室 11 室	7 室 27 室 15 室	※ 2 室 1 室 (補助職員 人)	0 室 (補助職員 人)	
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			複数人利用の共同研究室 含む コロナの影響で校舎建設 が遅れたため(3)
	薬学部 医療薬学科		33 室			

(5)	新設学部等の名称	図書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標本	学部単位で特定不能なため、大学共用分(学部と研究科)の合計数 電子ジャーナル 37,825タイトル 3,085誌 閲覧可 コロナの影響で校舎建設が遅れたため 既存学部で購入予定だった図書・機械・器具が変更になったため (3) 機械・器具以外は学部単位で特定不能なため、大学共用分(学部と研究科)の合計数 機械・器具はAC対象学部として算出(4) AC対象学部として算出。ただし電子ジャーナルは学部単位で特定不能なため、大学共用分(学部と研究科)の合計数 (5) AC対象学部として算出。ただし電子ジャーナルは学部単位で特定不能なため、大学共用分(学部と研究科)の合計数 (6)			
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					点	点	点
		冊	種	[うち外国書]							
図書・設備	薬学部	3,492 [298]	47 [1]	29 [27]	16	9,776	300	300 58 102 (102) (58)			
		3,181 [294]	15 [0]	22 [20]	623	9,726					
		19,462 [1,236]	323 [48]	12 [7]	582	21,360					
	19,043 [1,037]	323 [48]	13 [10]	616	21,429						
	20,854 [956]	338 [58]									
	(3,492 [298])	(47 [1])	(29 [27])	(16)	(9,776)						
	(3,181 [294])	(15 [0])	(22 [20])	(623)	(9,726)						
	-(19,462 [1,236])	-(323 [48])	-(12 [7])	-(582)	-(17,699)						
	-(19,043 [1,037])	-(323 [48])	-(13 [10])	-(616)	-(15,513)						
	-(20,854 [956])	-(338 [58])									
(6)	図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体(3)			
		420.08 m ²	803.48 m ²	184席	274席	10,028冊	27,140冊	AC対象学部として算出(4)			
		486.91 m ²		176席		18,900冊	8,240冊	学年進行に伴う増加(5)			
(7)	体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体(3)			
		637.07 m ²									
(8)	経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体 大学全体：図書購入費は、電子ジャーナル、データベースを含む コロナの影響で校舎建設が遅れたため(3) AC対象学部として算出(4)		
			教員1人当り研究費等	450千円	450千円	図書購入費	14,140千円	11,524千円 11,670千円		10,000千円	
		共同研究費等	4,000千円	4,000千円	設備購入費	1,031,842千円 661,733千円	605,074千円 975,060千円	10,000千円			
		学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
			2,280千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円	1,950千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			寄附金収入、補助金収入、雑収入等								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を**赤字で見え消し**修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に**赤字**で記入してください。
なお、昨年度の報告において**赤字で見え消し**した部分については、**見え消しのまま黒字**にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	湘南医療大学						収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	2	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
保健医療学部	4	220	-	820	-	1.00	-	-	平成27	-	
看護学科	4	140	-	500	学士(看護学)	1.00	-	令和4	平成27	1-2年次 神奈川県横浜市 中区山手町27	令和4年度から入学定員変更(80→140)
リハビリテーション学科	4	80	-	320	-	1.01	-	-	平成27	3-4年次 神奈川県横浜市 戸塚区上品濃16-48	
理学療法学専攻	4	40	-	160	学士(理学療法学)	1.08	-	-	平成27	同上	
作業療法学専攻	4	40	-	160	学士(作業療法学)	0.95	-	-	平成27	同上	
薬学部	6	130	-	520	-	0.43	-	-	令和3	-	
医療薬学科	6	130	-	520	学士(薬学)	0.43	-	-	令和3	神奈川県横浜市 戸塚区上品濃16-10	令和3年度設置
大学全体	-	350	-	1340	-	-	-	-	-	-	

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず本字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和2年10月)</p>	<p>県内の薬剤師が不足する地域への人材の輩出という本学科の設置に係る社会的ニーズに対応するため、都市部だけでなく、そうした地域における地域医療への貢献を学生に促す取組を検討すること。</p>	<p>【A C】改善意見 公益社団法人神奈川県薬剤師会および公益社団法人神奈川県病院薬剤師会と本学薬学部が、「社会が求める薬剤師の育成」に向け協力し、地域医療へ貢献する学術集会を開催するなど、学生にも参加を促し地域医療への参加意識を醸成する。(3)</p> <p>公益社団法人神奈川県薬剤師会小川護会長並びに公益社団法人神奈川県病院薬剤師会金田光正会長に本学薬学部の開設趣旨や「社会が求める薬剤師の育成に向け共に協力することが確認された。地域貢献においては両薬剤師会の認定薬剤師の講習会等を本薬学で開催する予定である。また、第52回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会(パシフィコ横浜)には、学生の参加や開催手伝い等を通して学生に学会参加体験を行うことを予定している。 本学独自の市民公開講座に加え、両薬剤師会の市民公開講座の開催場所の提供や、教員が講師となり地域貢献を担う予定である。(4)</p> <p>公益社団法人神奈川県薬剤師会、公益社団法人神奈川県病院薬剤師会、一般社団法人横浜市薬剤師会に対し個々に理事・一般会員に内覧会を兼ねて本学薬学棟へ招き懇談した。今後さらに各職能団体と連絡を密にて、地域医療貢献するための認定薬剤師の講習会や、研修会開催の協力を行うことにした。 令和4年度麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動神奈川大会において鈴木勉薬学部長が本学薬学部学生と共にパネルディスカッションに参加した。その大会の様子が神奈川県HP、You Tube厚生労働省で公開されている。 薬物乱用防止啓発の意識づけを学生たちに促した。(5)</p> <p>「薬物クリーンかながわ」活動として本学薬学部の船田教授が「最近の薬物乱用について考える」と題し、講演を令和5年5月12日に行い、主に大麻と市販薬の過量服用について若者達に警鐘を鳴らした。(6)</p>	<p>履行中</p> <p>公益社団法人神奈川県薬剤師会および公益社団法人神奈川県病院薬剤師会と協議し、薬剤師過疎地域や地域医療の課題解決に向けた検討を開始する。(3)</p> <p>県薬剤師会会長並びに県病院薬剤師会会長と神奈川県内における薬剤師過疎地域の情報を共有し、また地域医療の課題を検討する委員会または、ワーキング・グループを作り、地域医療の課題を列挙し、検討するための委員会設置について両会長に申し入れを予定している。(4)</p> <p>公益社団法人神奈川県薬剤師会、公益社団法人神奈川県病院薬剤師会と連携して、薬剤師過疎地域や地域医療の課題等を調査・研究を進める。 令和5年度で臨床系教員も全員着任したため、地域医療の課題を検討する委員会や、ワーキンググループを設置する検討会を発足する。(5)</p> <p>地域医療の課題を検討する委員会の設置に向け、引き続き話し合いを上記の職能団体と行う。(6)</p>
<p>認 可 時 (令和2年10月)</p>	<p>入学後の教育がより充実したものとなるよう、「入学前教育」の内容を精査し、適切に実施すること。</p>	<p>【届出】遵守事項 「入学前教育」は、入学予定者に対し、基礎学力の補習・向上や、学習意欲の維持・向上、および入学後に必要となる専門知識の習得など、高大接続をスムーズに移行できるようにすることを目的としている。これを踏まえて「入学前教育」の内容を精査し、本年度は「入学前教育」として、「物理学」</p>	<p>履行済</p>

		<p>入門」、「生物学入門」、「数学入門」、「化学入門」、「基礎英語」の5科目を入学予定者に課す。</p> <p>「物理学入門」は、薬学を学ぶ上で必要となる力学や電磁気学の基礎を学習する。また、分子の性質や挙動を正しく理解するために必要な量子論についても導入的な学習を行なうことで、物理学と薬学との結びつきを意識した学習内容となっている。「生物学入門」は、薬学基礎科目の生化学、生理学、解剖学、免疫学、微生物学の導入として重要であり、生物の謎を解明する研究や基礎科目の基盤となる。また、「数学入門」では、数学が医薬品の有効性、安全性の評価にどのように役立つかを学習する内容を含んでおり、単に計算方法だけではなく数学の考え方を学ぶことが、今後、薬剤師、医療従事者に必要とされる知識を理解する上で役立つ。「化学入門」では、化学物質の構造や反応性について学ぶことにより、医薬品を分子レベルで理解するために必要な化学の基本的知識を整理し、取得する。薬学部で行われる有機化学、薬品化学等の修学への動機づけとする。「基礎英語」では、薬学研究や医療現場での活動に役立てられる英語力の習得を将来の目標に置きながら、その基礎となる英語力を養う。そのために正確な英語の活用不可欠である英文法の知識を確認すると同時に、初歩的な薬学関係の英語表現を学習する。</p> <p>「入学前教育」の具体的な実施方法として、学習支援システム（manaba）による講義映像の閲覧および小テスト課題への取り組み（全8回）を5科目について実施する。これに加えて、3月末に「入学前教育のフィードバックとまとめ」として、オンライン双方向会議システムを利用した入学前スクーリングを実施する。 （別添資料②）（3）</p>	
<p>認可時 (令和2年10月)</p>	<p>教員の補充を必要とされた12授業科目については、科目開講時までに教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた5授業科目については、確実に専任教員を配置すること。</p>	<p>【届出】 遵守事項</p> <p>職位（教授）不適合となった専任教員が担当する予定であった5科目は、5月の教員審査に准教授として申請し直した。 また、残りの7科目のうち、1科目「早期臨床体験実習」は、すでに兼任補充し、対応している。 （3）</p> <p>職位（教授）不適格（兼任補充可）となった1名の教員は、就任を辞退したが、担当予定の7授業科目は、全て共同または、オムニバス科目であるため、兼任補充せずに、既存の審査済の専任教員が担当する。 また、職位（教授）不適格で5科目専任補充となった1名の教員は、現職の都合で本学の赴任が2022年度から2024年度に変更になったため、2022年度開講の1科目および2022年度開講1科目は、兼任教員レ</p>	<p>履行済</p> <p>残り6科目中1科目は、2022年度、2科目は2025年度、2科目は2026年度の科目開講時までに兼任補充する予定である。（3）</p> <p>職位（教授）不適格（兼任補充可）となった1名の教員の後任に、2023年度1名の専任教員を補充予定で、2022年度中に教員審査を受審し、受審後は当該教員の予定授業科目を担当する。 また、職位（教授）不適格で5科目専任補充となった1名の教員が担当する残り3科目の開講年度は、2024年度1科目、2026年度2科目であるため、科目開講時までに補充する。（4）</p>

			2022年度開講科目は、兼任教員として補充し、担当する。(4)		
認可時 (令和2年10月)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	【届出】 遵守事項	設置の趣旨で提出している「湘南医療大学完成年度後教員配置計画」に基づき、高齢者13名は退職する。 本学の教員は有期雇用とし、初回は6年間、引き続き採用する場合は2年間として、教員組織の再編ができるような仕組みとしている。 (3)	履行済	設置の趣旨で提出している「湘南医療大学完成年度後教員配置計画」に基づき、高齢者13名は退職する。 本学の教員は有期雇用とし、初回は6年間、引き続き採用する場合は2年間として、教員組織の再編ができるような仕組みとしている。 (3) 引き続き、設置の趣旨で提出している「湘南医療大学完成年度後教員配置計画」に基づき、高齢者13名は退職する。 本学の教員は有期雇用とし、初回は6年間、引き続き採用する場合は2年間として、教員組織の再編ができるような仕組みとしている。 (4)
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年)	・教定育員内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。	【A C】 指摘事項 (改善)	昨年度に引き続き、学生募集活動に努めており、令和4年度入学生は、66名で入学定員の0.5倍であった。入学定員充足率100%を大きく下回ったものの、昨年度入学者34名よりも前年比194%である。増減率は+94%となった。前年度提出した改善計画に基づき学生募集活動に取り組んだ結果、志願者数は、昨年度111人に対して、81人増加して192人になったものの、未だ本学部の特徴や教育活動は周知不足で、薬学部受験意識について本学部と高等学校の間で乖離がある。更に、本学部の教育内容の充実を図り、全学上げて学生募集活動に真摯に取り組み定員充足に努める所存である。(4)	履行中	①ホームページの強化 本学の特徴でもある、「臨床に強い薬剤師の養成教育」が、より浸透され、理解される教育内容の周知をホームページ上でわかりやすく伝えることができるように努める。また、高大接続教育(入学前教育)や、チューター制による少人数単位の学生支援なども本学の強みとしてPRする。また、教員研究活動、オープンラボでの研究効果など、研究者情報もホームページ上で随時更新して本学の魅力の伝え方を工夫する。 ②高校及び予備校訪問地域の拡大 神奈川県、東京都、静岡県内を中心とした高校や予備校の訪問活動を行っていたが、範囲を東海地方、北信越地方、北海道・東北地方など、東日本まで拡大して年間500校程度を訪問し、入学定員の約半数の確保を目標に募集活動を充実させる。 ③電子媒体での広報力強化 コロナ禍のため、WEB相談会、SNSでの発信など、時代のニーズに対応し、対面式以外の多様化した広報活動をより強化して展開する。 ④受験科目の変更と受験機会の増加 一般入試の受験科目を3科目選択から2科目選択に変更、また、英語試験の外部試験結果を導入する。但し、学力低下につながらないように、アクティブラーニングで本学部の求める学力を公表し、高校で必要最低限の学習を身につけた入学生を確保する。一方、入学前教育及び補完教育を実施し、薬学基礎及び実践教育にスムーズに対応できるように学生支援教育を徹底する。 また、一般入試の受験日を複数日設定し、受験しやすい環境を整え、受験者数の増加による定員充足の改善を目指す。(4)

<p>設置計画履行状況 調査結果 (令和3年) 追加</p>	<p>平均入学定員超過率が0.38倍と著しく低い が、その原因分析の状況及び今後の改善策等について具体的に説明すること。</p>	<p>【A C】 指摘事項 (改善)</p>	<p>令和4年度入学生は、66名で入学定員の0.5倍であった。入学定員充足率100%を大きく下回ったものの、昨年度入学者34名よりも前年比194%となった。前年度改善計画に基づき学生募集活動に取り組んだ結果、志願者数は昨年度の111人に対して81人増加の192人になったものの未だ本学部の特徴や教育活動は認知度が低く、高校及び受験者のニーズに応えきれていない。そのため、2022年度新入生アンケート調査(参考資料1)を実施し、2021年度の入試結果と合わせて現状を分析した結果、下記の点が改善を要するポイントであると考えている。</p> <p>1 本学の重要な学生募集活動である「高校のガイダンス(1.9%)、進学フェア(0.9%)、オープンキャンパス(OC)(7%)」における薬学部の認知度が極めて低い。前年度のOC参加者は、受験対象外を含め全体で181名。OCからの出願者は140名(出願率42.4%)で、入学者の36.4%しかOCに参加していない。</p> <p>2 学校推薦型入試(募集定員65名)の受験生は、23名(出願率35.4%)であった。つまり、本学部を第一志望として高校からの推薦を受けたと思う受験生が極めて少ない。</p> <p>3 本学部を第一志望とした入学者は40.6%であった。また、本学以外に受験した割合は83%(内、20.8%が3校併願)であったため、本学部入学生の多数は、他学の滑り止めであったと推測される。また、本学を未見学で受験した割合は、47.4%で、本学受験を決めた時期は、高3の秋から冬が最も多く56.7%であったことから、本学を第一希望とする学校推薦型入試の受験生が少ないことがわかる。</p> <p>4 予備校・塾で本学部を認知して入学した割合が約半数の55.4%であったが、それらに通学する受験生へのアプローチが弱かった。</p> <p>5 本学部に入学した理由に、①教育内容、②教育環境・施設設備の充実、③通学の利便性を上げた入学者が多くを占めた。また、入学者の83.1%が、グループ病院と連携した臨床実習が魅力であると感じているため、本学部の特色となる要素を周知する広報活動が弱いと感じている。</p> <p>2021年度入試の分析結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校推薦型入試 受験者数23名 合格者22名 (合格率96.6%) 入学者16名(歩留率72.7%) 上記の割合で定員65名を確保するには、 受験者数94名×合格率96%＝合格者90名(歩留率72%)＝入学者65名 ・一般入試 受験者数76名 合格者69名 (合格率90.7%) 入学者40名(歩留率57.9%) 上記の割合で定員55名を確保す 	<p>履行済</p>	<p>履行状況の分析を踏まえ、入学定員確保に向けて学生募集委員会等において改善策を検討した結果、</p> <p>(1) 学校推薦型入試受験生(本学部第1志望の学生)の増加対策</p> <p>(2) 本学部の教育内容等の魅力を発信するオープンキャンパスの実施とオープンキャンパスに参加できない受験生にも教育内容等が伝わるホームページの充実</p> <p>(3) 一般入試受験者生の増加対策</p> <p>(4) 学生募集・入試の情報の学内共有</p> <p>の4点に絞り下記の対策を強化する。</p> <p>ア ターゲットの設定上での学生募集活動 学校推薦型(公募型)で受験生を確保するために、薬学基礎教育に必要な学力として偏差値50以上の高校で、評定平均値3.0以上及び通学可能圏、学業成績以外の高等学校の活動履歴なども勘案した入学生の確保を目標に、神奈川県、静岡県東部、山梨県及び東京都西部地区を重点エリアに特定して年内入試(学校推薦型入試)の募集ターゲットを選定し、募集活動を行う。 (ホームページ) 本学の特色の「臨床に強い薬剤師の養成教育」が、HP上で理解されるようにわかりやすく伝えることができるように努める。また、高大接続教育(入学前教育)や、チューター制による少人数単位の学生支援なども本学の強みとしてPRし、Q&Aのページにも力を入れ、受験生の疑問にタイムリーに応える。また、研究室の案内や研究活動、オープンラボや実験実習室の施設設備の紹介もホームページ上で随時更新して本学の魅力の伝え方を工夫する。その他、薬学部ランディングページの作成、臨床実務実習を行うグループ病院の紹介などのページを随時更新して、最新の情報の提供に努めている。また、コロナ禍のため、SNSでの発信や、オンライン相談を随時受け付けており、遠方に在住する方や説明会等に参加できない受験生等のために、対面式以外の多様化した広報活動に強化して展開する。</p> <p>また、学校推薦型(指定校型)入試は、偏差値52以上で薬学部進学実績がある各都道府県高校499校を抽出し、その内155校を指定校に選定し、推薦の依頼を行った。</p> <p>イ 高校および予備校・塾との関係づくり (高校) 教員自ら重点エリアの高校訪問を行い、入学前教育の取り組みの状況や特別課外授業などを報告し、入学生の成長を見える化している。また、高校教員向け説明会の強化を図ったほか、高校単位で受け入れるバスツアー型オープンキャンパスを2校実施し、模擬授業、キャンパスツアーを含め、本学の「出張授業の案内」(参考資</p>
--	--	--------------------------------	---	------------	--

るには、
受験者数110名×合格率90%＝合格者100名（歩留率55%）＝入学者55名

∴ 推薦入試受験者数94名、及び一般入試受験者数110名の出願が必要となる。

また、上記の学校推薦型入試の受験者数94名を確保するには、215名（OCからの出願率42%）のオープンキャンパス参加者数が必要であると予測される。

今後の実施計画

履行状況の分析を踏まえ、入学定員確保に向けて学生募集委員会等において改善策を検討した結果、

(1) 学校推薦型入試受験生（本学部第1志望の学生）の増加対策

(2) 本学部の教育内容等の魅力を発信するオープンキャンパスの実施とオープンキャンパスに参加できない受験生にも教育内容等が伝わるホームページの充実

(3) 一般入試受験者生の増加対策

(4) 学生募集・入試の情報の学内共有

の4点に絞り下記の対策を強化する。(4)

料2)から先方の希望に応じたプログラムなどを柔軟に行っている。

募集範囲を東海地方、北信越地方、北海道・東北地方まで拡大して500高校程度を訪問する予定であるが、コロナ禍でもあり、オンラインと併用して募集活動を行う。

(予備校・塾)

予備校に通学していた入学生が約半数いたことから、首都圏の予備校を中心に全国の予備校178校に入試過去問題集及びパンフレットを持参または送付し、本薬学部の魅力を周知することに努めている。

ウ 本学の魅力を伝える広報活動（オープンキャンパス）

開設2年目で認知度が未だ低いため、その対策として、オープンキャンパスを4月-9月の間に毎週計26回開催し、学科説明、模擬授業、体験コーナーを実施し、当日参加者の質問をまとめて次回の改善に反映させる取り組みを行った。(参考資料3)。結果、2022年9月現在、本人312名（内、高校3年生201人）及び保護者234名が来校した。(昨年本人181名（内、高校3年生140人）、保護者115名)前年対比172%と大幅に伸びた。

(ホームページ)

本学の特色の「臨床に強い薬剤師の養成教育」が、HP上で理解されるようにわかりやすく伝えることができるように努める。また、高大接続教育（入学前教育）や、チューター制による少人数単位の学生支援なども本学の強みとしてPRし、Q&Aのページにも力を入れ、受験生の疑問にタイムリーに応える。また、研究室の案内や研究活動、オープンラボや実験実習室の施設設備の紹介もホームページ上で随時更新して本学の魅力の伝え方を工夫する。その他、薬学部ランディングページの作成、臨床実務実習を行うグループ病院の紹介などのページを随時更新して、最新の情報の提供に努めている。また、コロナ禍のため、SNSでの発信や、オンライン相談を随時受け付けており、遠方に在住する方や説明会等に参加できない受験生等のために、対面式以外の多様化した広報活動に強化して展開する。

エ 受験科目の変更と受験機会の増加

一般入試の受験科目を3科目選択から2科目選択に変更、また、英語試験の外部試験結果を導入する。また、受験日を複数日設定し、受験しやすい環境を整え、目標受験者数の確保による定員充足の改善を目指す。

但し、学力低下につながらないように、本学部の求める学力を公表し、高校で必要最低限の学習を身につけた入学生を確保する。入学生には、入学前教育及び補完教育を実施し、薬学基礎及び実践教育にスムーズに対応できるように学生支援教育を徹底する。

オ 学内でのデータ共有

学生募集期間中（4-9月）は、オープンキャンパスやガイダンス状況を、また、入試期間中（10-3

				<p>月)の受験者状況を速やかに、学長、学部長、学科長等にメールで報告。月次では、運営管理会議や理事会において報告。特に学生募集活動に関しては、入試・広報担当職員は学科の教員に情報を共有し、危機意識を有して迅速な改善ができるように意識改革を図っている。(4)</p>
<p>設置計画履行状況調査結果 (令和4年)</p>	<p>・教定育員内容の充実等を通じ、入学定員未充足の改善に努めること。</p>	<p>【A C】 指摘事項 (改善)</p>	<p>令和5年度薬学部入学生は、78名(入学定員充足率60%)であった。昨年度入学生66名よりは12名増となったものの入学定員充足率100%を大きく下回る結果となった。学生募集活動を強化したものの、本薬学部の特徴、教育活動及び目指す姿を示すディプロマポリシー等と、高等学校や受験生などのステークホルダーが求める成果(薬剤師国家試験指導実績、就職実績等)に、新設校が抱える課題があると推察している。本薬学部の知名度と並び認知度の向上のための広報戦略を再構築して、薬学部受験生のイメージギャップを埋めるべく、根幹である本学のアドミッションポリシーに適うターゲットを絞り込み、薬学部志願者が、本学部のカリキュラムポリシーなど教育内容への関心が高められるように広報・募集活動を通じて、その内容を一貫して発信する必要があると認識している。(5)</p>	<p>履行中</p> <p>①入試区分の定員の見直しと特待生制度の設置 1) 本学を第一志望とする入学生の割合を増加させるために総合型選抜入試の占有率を上昇させる。昨年度定員5名だった総合型を20名(選抜区分15.3%)に増員し入学者を確保する。なお、文科省「大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究調査報告書」(令和4年度)によると、私立大学の選抜区分で総合型選抜入試は、約17%であったため、本学も同様の水準にあげた。 2) 特待生制度を設け、総合型選抜及び学校推薦型選抜の学科試験上位者(22名・入学定員の約17%)に対して6年間の授業料全額免除または半額免除する。成績優秀な受験生に対して本学への早期出願から入学へと導き、安心して就学し、継続して修学できるように経済的支援を行う。 ②県内外からの志願者獲得 1) 入学定員130名を確保するために、歩留まり状況や辞退率から逆算して資料請求、イベント参加者数の目標数値を設定する。資料請求数2,400件(前年度1,977件)、前年度121%増を目標、また、オープンキャンパス参加者数は600人(前年度312名)、前年度192%増を目標とし、出願者数460人(前年度243人)、前年度189%増を目標として、合格者数370人以上の中から入学者数=定員130人(歩留まり率35%以上目標)の確保を目標とする。 2) 上記の目標達成のために、神奈川県内の高校から90名(入学者数の70%)、神奈川県以外の地域の高校から40名(入学者数の30%)の確保を目標とする(前年度神奈川県内の高校からの入学者(68名・入学率約80%)。昨年は、コロナ禍で神奈川県外の高等学校及び予備校への訪問(500校)はできず電話等で対応したため、受験者増に大きく結び付くような成果を上げることはできなかった。今年度は、高校訪問のエリアを東日本全域で、特に私立大学薬学部が設置されていない地域(静岡県、山梨県、長野県)300高校を重点的に直接訪問して積極的I-PR</p>

を行い、県外からの受験者数を2.6倍（前年度73名/243名を180名/600名）にする。

3) また、薬学部の特徴や魅力をわかりやすく伝えるよう大学ガイドブックを毎年度作成し、配布を行っている。令和4年度は10,000部発行し、各種イベントなどで配布した。大学ガイドブックは大学の全体像を理解してもらうことを目的に、学部学科の情報は概要のみに留めていた。今年度は、教育内容をはじめとした学部・学科の詳細について理解を深められるように、薬学部の別冊のガイドブックを作成する。なお、令和5年度の大学ガイドブックは、前年度より多くの受験生に20,000部配布する予定である。

③薬学部教育の特徴のPR

本学薬学部の特徴である「臨床に強い薬剤師の養成教育」を前面に打ち出し、その教育を実現するための「教育の質保証、並びに学生の質保証（学生サポート体制）」も公開し、本学の魅力をステークホルダーに伝える。

1) 個別チューター制度を置くことにより学生個々への学修・生活指導を行う。

2) 薬学共用試験（OSCE・CBT）試験および国家試験対策として、カリキュラム外活動（模擬試験、各種補講、過去問の取組み）を強化した学修支援策を行う。

3) 臨床薬学教育を実践するために、教員全体の53%を占める臨床系教員（21名：うち実務家教員14名）、および基礎系教員（20名）を配置して学修指導を行っている。

4) 薬剤師が患者を援助できるようになるための「実践的な教育」をPRする。

ア) 医療・医学の「知識」が学べる（症候・診断学など）。

イ) 患者や家族とのコミュニケーション（医療面接）を通して、「情報収集能力」を養える（コミュニケーション論 病院実務実習など）。

ウ) 薬学の専門的知識と突き合わせて、患者本位の薬物治療を医師と共にどのように進めていくかという「総合的な判断力」を養える（薬理学、薬物治療学など）。

エ) 教員がグループ連携実習施設17病院に出向き、病院実務実習を実施する。

5) 臨床に強い薬剤師の就職先を周知する。

薬局以外に、病棟薬剤師や治験（新薬開発実験）をコーディネートできる薬剤師の存在を広める。

6) 「異なる研究分野との連携」を強化・推進できる「オープンラボ（共同研究室）」6室設置して研究環境を整えていることをPRする。

④WEBサイトでの広報力強化

上記の具体的活動内容を本学ホームページに盛り込みと同時に、令和5年度は、受験生に本学の教育内容を理解できるように「動画」などを用いてわかりやすく伝える。今後も随時情報を更新するとともに、資料請求に応じられるよう工夫を凝らす。また、オープンキャンパスや入試情報を広く告知

するため、SNSや進学情報サイトを通じて本学部の特設サイトへの誘導も促進する。また、WEB相談会、SNSや動画での発信など、時代のニーズに対応したオンライン等による広報活動も強化して展開する。昨年以上にタイムリーな情報提供をネット経由で行うよう増強していく。

⑤オープンキャンパス・進学相談会

オープンキャンパスでは、学部・学科の紹介、キャンパス案内、施設見学、模擬授業、入試に関する説明会、在籍学生との座談会など、時期に応じて適宜プログラムを組み、受験生等に対して本学における教育環境を紹介している。また、オープンキャンパスでは、受験生や保護者の受験・進学における疑問や不安に対応できるように、個別相談会場を設けている。令和4年度は計34回で203人（オープンキャンパス参加者312人）の申込みであった。令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の状況で人数を制限して対面で開催した。令和5年度は、薬学部については、特設会場や個人相談会場を設け、周知を図り、390人程度の参加を見込んだ準備を進める。

⑥学外における説明会・相談会の実施参加

全国の受験生に本学をより深く理解してもらうことを目的に、学外の進学説明会・相談会に令和4年度は132回（高校101校並びに31会場）参加している。説明会・相談会では、本学専用のブースを設け、受験生・保護者等に個別に対して本学の特色や入試等について説明を行う。令和5年度は主に6月から10月にかけて、北海道・東北地区、関東・首都圏地区、北陸・甲信越地区の各主要都市で開催された、35日程の進学説明会・相談会に参加する。また、令和5年7月と9月に桐蔭学園高校の生徒が本学薬学部の研究室体験（研究シャドウイング）を予定しており、大学全体及び薬学部への理解を深めてもらい、その後の受験につなげられる活動を行う。

⑦高校教員向け入学説明会の実施
本学では、高校進路指導教員向けに説明会を毎年度6月に開催している。令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響拡大を考慮し、小規模での説明会の開催であったが、2015年度から入学説明会に参加実績並びに指定校推薦対象高校493校への資料送付を送り、56校から参加があった。令和5年度も継続かつ回数を2回に増やして実施する予定である。この説明会では、主に学部の教育内容や入試制度の紹介を行っており、新年度の学生募集におけるキックオフという位置付けとしている。また、参加校からは多くの受験生が見込まれることから、令和5年度開催時は薬学部の特待生制度への理解も深めてもらい、本学部が養成する人材像や教育内容について紹介するとともに、薬学部専用のリーフレット等の配布を予定している。

⑧高校への訪問活動

薬学部では、前述のイベントや説明会の実施・参加に加え、学部の教育内容の更なる認知向上を目的に、高校訪問活動を実施してい

に、高校訪問活動を実施している。高校の進路指導部へ赴き、学部の紹介に加え、募集に関する案内を行うとともに、当該高校の生徒に興味を持ってもらえるよう簡易リーフレット、ガイドブックの配架依頼を行っている。訪問活動は、入試・学生募集担当2名及び薬学部の専任教員全員を配置し、本学の進学実績のある高校を中心に年複数回行っている。令和4年度は193校へ訪問し、そのうち80校出願に繋がり、52名の入学者となっている。令和5年度については、382校へ訪問（神奈川140、東京136、千葉39、静岡50、山梨17）、158名の出願を目標とする。また、長野県は27校を対象にし、学生募集担当が高校訪問を実施していく。高校訪問活動は学生募集に大きな効果を示していることから、本学部も積極的に宣伝していく予定である。

⑨出張講義
 本学部では「臨床に強い薬剤師を養成する医療大学」として、生命科学や自然科学及び臨床薬学の魅力を伝えることを目的に、高校生を対象とした出張講義を実施している。講義テーマは高校の要望に詳細に対応できるように薬学部で定め、令和5年は75テーマ程度の講義が提供可能である。出張講義は高校生や高校教員に対して、薬学部の教員が専門分野における講義を直接行うことは本学での学びを体感してもらう機会と捉えていることから、「薬学」という学問の浸透を目的に積極的に実施する計

設置計画履行状況
 調査結果
 (令和4年)
 追加

平均入学定員超過率が0.46倍、収容定員充足率が0.43倍と著しく低い。その原因分析の状況及び今後の改善策、今年度の学生確保の状況等について具体的に説明すること。

【A C】
 指摘事項
 (改善)

■今年度（令和5年度入学）の学生確保の状況
 令和5年度入学生募集において、入学定員充足率100%を目指し、前年度改善計画に基づき学生募集に取り組んだ。令和3年度（開設年度）入学生34名（入学定員充足率0.26倍）、令和4年度入学生66名（入学定員充足率0.5倍）に対し、令和5年度入学生は78名（入学定員0.6倍、前年比118%）であった。但し、定員充足率0.6倍ではあるものの、志願者数は、前年192名に対し、238名前年比124%と増加して前年を上回る結果を受けて、入学者は年々増加しており、入学定員未充足は改善の傾向にある。

■入学定員充足率未達の原因分析
 (1) 本学薬学部の認知度
 本学は、2015年度に設置した保健医療学部と比べて、薬学部の認知度は未だ低迷している。そのため、志願者だけでなく、志願者が進路を相談する「高校教員」向けの大学説明会の実施や、高校訪問を通じて認知度向上に努めている。しかし、各大学知名度調査では、前年6.2%から8.7%（+2.5%）に上昇したが、競合他大学に比較し依然低い値である。（資料1「リクルートスタディサプリア登録者調査」より）

履行中

■履行状況から踏まえた今後の活動
 ○2024年度募集から2025年度募集一般選抜入試に向けて、過去の出願実績校を中心に高校訪問活動を継続し、一般選抜試験の告知を行う。また、本学の学びの内容の周知、特に、基礎教育と臨床教育がコラボした実習指導、少人数教育での学修指導、臨床一貫型連携教育体制など、本学薬学部の特色、独自性を高校生が理解できるように情報発信を行う。また、入試制度改革として設定した「特待生制度」を活用とする入試の周知とグループ病院施設との連携教育体制について説明を行っていく。本学薬学部は現時点で国家試験合格率、就職先や就職率に関する情報開示できる要素が極めて少ないため、高校教員及び在学生の保護者に対して、その高校の出身者の大学入学後の成績や活動記録などを開示し、入学した学生が本学薬学部での成長をタイムリーに見られるように準備を進め、本学薬学部の教育の質を理解してもらえるように努める。また、次年度実施予定のCBT/OCSE対策状況、グループ病院施設での薬学実務実習の計画などの情報も広く発信する。
 現在、高等学校の進路指導指導は、総合型選抜、学校推薦型選抜入試を検討している薬学部等理系

(2) オープンキャンパス等イベント参加者からの出願率の分析

本学薬学部へ志願度を高める機会である「オープンキャンパス

(OC)」は、出願に直結する重要なイベントである。2022年4月入学者のうち、OC参加者は35名、入学率は45.4%であった。このデータにおいて、入学定員確保に必要な受験対象者を286名としてOC参加数の目標値を掲げたが、2022年4月から2023年3月までの受験対象者OC参加者は、前年101名に対して125名の微増に留まったことも定員未充足の要因である。

また、オープンキャンパス等本学主催の入学イベント等に参加せずに入学した受験生は43名（入学者に対する割合55.1%）おり、そのうち、一般選抜入試からの入学者44名中24名（55.2%）の割合であった。

2022年度一般選抜入試合格者歩留まり率57.9%、共通テスト合格者歩留まり率8.3%、一般選抜入試合格者全体歩留まり率40.9%、一般選抜入試合格率90.7%のデータを踏まえ、2023年度一般選抜入試受験者数149名を目標としたが、前年76名から31名増加し、107名の受験生を確保したが目標数値には至らなかった。（目標達成率71.8%）なお、一般選抜の入学者歩留まり率は2022年度の40.9%から12.2%減少して、28.7%の結果であった。つまり、一般選抜において本学薬学部を第一志望とする入学生は非常に少ないことがわかる。

(3) 入試区別充足率からみた本学薬学部の志願度

入学定員130名の入試区分の定員は、学校推薦型選抜65名、一般選抜60名、総合型選抜5名である。2023年度学校推薦型選抜の入学者30名（区分定員充足率46.1%）、一般選抜の入学者44名（区分定員充足率73.3%）、総合型選抜の入学者4名（区分定員充足率80%）であった。

2022年に対して2023年度の受験者数が増加した入試区分は、学校推薦型選抜（23名→40名）、一般選抜入試（76名→107名）、大学入学共通テスト（43名→72名）の3区分である。このうち、学校推薦型選抜は、原則本学専願であるため志望度は高く、40名中30名が入学（歩留率75%）している。

しかし、一般選抜入試及び共通テスト利用入試の受験生は増加したものの、一般選抜入試の入学者は44名（歩留率47.3%）、共通テスト利用入試の入学者6名入学（歩留率10%）であるため、本学部を第一志望とする入学者は非常に少ない。

この結果からも、本学専願希望者である「学校推薦型選抜入学者」数及び比率を上げることが喫緊の課題である。そのため、本学薬学部を第一志望（専願）にしている学校推薦型選抜（指定校・公募）の受験者90名まで増加させる必要があり、その対策として、次の学生募集計画を遂行している。

■今年度の学生募集計画と現況
これまでの状況を踏まえ、改善策を検討し、以下の内容を実施す

希望者の志望校絞り込みを高1から高2終了までに決定するスケジュールで指導している高校が多い。また、一般選抜においては、高校2年の秋期までに決定するスケジュールで指導している。また、第一志望校を2年次に決定させる高校の割合は、54%との統計がある。※ベネッセコーポレーション「高校教員アンケート調査」（2019年11月）

これらの調査からも、年々、入試が早期化する傾向は避けられない状況にある。そのため、本学薬学部は、1、2年生を対象とする春休み期間のオープンキャンパスを行い、本学志願者の早期確保と志願候補大学として認知してもらうために、まず、本学薬学部の教育内容を充実させることで学生の満足度が向上し、それらのポジティブな情報を積極的にHPやSNSを通じて発信することにより、入学者の確保につながることから、教育内容を充実させるべく、以下の取り組みを強化する。

- ・CBT/OSCE合格から国家試験に向けた対策及び支援
- ・「臨床に強い薬剤師」を目指した教育及び実習内容の充実
- ・アクティブラーニングを意識した授業の推進
- ・学生による授業評価の改善と活用
- ・研究マインドを育てる教育の充実

また、オープンキャンパスなどの機会には、薬学への興味関心を伝えるだけでなく、本学薬学部の学びの過程、研究活動、進学後の学修の大切さ、併せて医療従事者への適性など、高校生に自身の将来に向けた職業適性を考えさせる情報の提供も併せて伝えたいと考えている。

さらに、予備校に通学していた入学者が約半数いたため、首都圏の予備校を中心に全国の予備校178校に入試過去問題集及びパンフレットを持参または送付し、本学薬学部の魅力を周知することに努めている。（5）

る。

- (1) 早期受験者確保に向けた対策
- (2) 県内及び隣県の高等学校との連携強化
- (3) 学費負担軽減を目的とした試験制度の導入
- (4) オープンキャンパス実施内容の見直しと情報公開
- (5) 学生募集体制と情報の共有

(1) 早期受験者確保に向けた対策
受験生の早期志望校決定と年内入試の出願者増は本学保健医療学部でも顕著に表れており、総合型選抜、学校推薦型選抜での入学者確保が進んでいる。今年度の薬学部総合型選抜入試では、前年5名の受験生に対して9名(+4名)の受験生(前年比180%)を確保している。また、第1回学校推薦型選抜入試では指定校型12名(前年19名)、公募型10名(前年10名)の状況であり、第2回学校推薦型選抜入試(1月)を含めると増加傾向にあり、前年度は47.4%、全入学生の半数を当該2区分の入試で確保している。本学薬学部としては、今後その割合が全体の70%程度まで増加することを予測し、「選抜する入試から入学後から育成していく入試」が定着することを念頭に、面接、小論文、基礎学力などを組み合わせた入試を行い、多面的に評価している。また、早期入学者の学力不足が進む可能性も踏まえて、入学前教育を行い、高等学校で学んだ強化の復習や補習、大学で学ぶための基礎学力・学習習慣を身につけるための課題に取り組んでいる。(資料2)

- (2) 県内及び隣県の高等学校との連携強化

本年4月に実施した薬学部入学生アンケート調査結果(資料3)の中で、本学薬学部を志望理由として、①専門分野への興味(27.3%)、②教育環境・施設設備の魅力、通学の利便性(11.7%)、④教育内容の魅力、専門資格の取得(10.4%)を上げている。

この結果を踏まえ、本学薬学部を志願し入学した者の多数は、「薬学、化学への興味があり、自宅からの通学可能な範囲で整備された本学が目指す薬学教育、及び教育環境の下で薬剤師を目指したい」と考えられる。また、2023年度一般選抜入試及び大学入学共通テストの合格者のうち、辞退者の半数54名は、本学が位置する神奈川県以外の出願者であった。

以上のことから、「神奈川県内在住者」の受験層をメインターゲットとして捉え、本学までの通学可能な範囲(1時間)に位置する高等学校を中心に、本学薬学部の強みである「臨床に強い薬剤師教育」を行っている実績を説明して募集活動の強化を図っている。

また、学校推薦型選抜試験における指定校は、前年19名の出願実績校、神奈川県、東京西部、山梨県、静岡県などの高校538校を選定している。本学薬学部の教職員は、「本学薬学部の教育に関心のある学生」に受験してもらうことが重要と考え、受験生一人ひとりに向き合い教育をより深く理解してもらうために、指定校、出願実績校、在学生出身校を中心に高校

横浜、仕子生田身校を中心に高校訪問を地道に行い、在校生の様子や学習状況、教育センターの活動報告、入学前教育から入学後の学習支援方法（チューター制）などについて説明を行っている。

その他、高校との学びの接続に一層力を入れ、連携授業として「出張講義」（資料4）や「公開講座」（資料5）、「大学見学・体験会」に加えて、本年度は、桐蔭学園高校の生徒に対して「研究室シャドウイング」と称して、「ここまで進んだ抗がん剤治療、がん専門薬剤師が教える治療最前線」、「アレルギー反応のいろいろ」、「生薬の化学分析を検出してみよう」「紫雲膏を調製してみよう」の4テーマで研究体験を実施し、本学の薬学、化学教育研究活動の普及と地域貢献活動を行った。同様に、「湘南鎌倉地区の高校生インターンシップ」においては、「大学に行こう研究室探究」を企画し、アスピリンを用いた実験や製薬の調合や使用法などについて実験人形を用いた体験を実施し、効果的に本学薬学部の認知度向上に努めている。また、その効果をより高めるに、2024度から入試・広報担当部門にアドミッションオフィサーの配置を予定し、高校生の主体的な進路選択に関わることでさらに学生募集を強化できると考えている。

(4) オープンキャンパス実施内容の見直しと情報公開

上記(3)に記載した、薬学部入学生アンケート調査結果の中で、本学の特色の一つである「グループ病院施設との連携」において、特に「臨床実習の魅力」を魅力に挙げている入学者が87%いることを受けて、今年度からオープンキャンパスで「病棟薬剤師を知る」というテーマで、隣接するグループ病院のふれあい東戸塚ホスピタル薬剤部と連携し、実際に就業している「病棟薬剤師」を招き、病棟での薬剤師の役割、実務、「専門薬剤師」「認定薬剤師」などのキャリアアップ情報と実際に病院薬剤部を見学するイベントを毎月1回開催し、本学の臨床教育の魅力を伝える工夫を行っている。

2023年12月27日現在、今年度のオープンキャンパス参加状況として321名（前年312名）が来学している。（資料7）。特に高校2年生が122名（前年101名、120%増）来学しており、低学年の来学者も増加しているため、本学薬学部が存在が周知され始めていると認識している。

また、現時点の本学薬学部の資料請求者数は、3,617件（前年3,434件。うち高校3年1,571件（前年1,484件））に上る。特に受験対象者の高校3年生で神奈川県在住者からの資料請求者数は771名

（46.6%）で、前年の610名

（44.2%）から増加している。また、

高校2年生の資料請求者数は、前年913名に対し、1,166名と253名増加している。その内、神奈川県在住者の資料請求者数は、596名（51.1%）で、前年356名（40%）から県内在住者比率が上昇している。

新型コロナウイルスの感染拡大時期からの影響や地方の18歳人口

		<p>の減少などの影響もあり、県外からの受験者数が減少することが本学の資料請求者数の傾向から読み取れる。大学ジャーナルオンライン2021年2月5日掲載の記事においても、都道県外の大学への進学については、22.4%の高校が「減った」と答えており、今後も県外受験対象者からの情報収集、及び受験者の減少傾向は続くことが予測される。</p> <p>上記の状況を鑑み、本学は、各進学サイトを通じた情報発信が、神奈川県内外からの資料請求数を増加させるための有効なツールである認識して強化している。HPでは薬学部紹介動画を掲載し、実際の教育内容や受験対策、教育支援、研究紹介などを公開している。更に今年度は新規に「在校生の動画やインタビュー記事」を公開しており、継続して新しいコンテンツをHPの他、LINE、X（旧twitter）などのSNSにも同時に情報を掲載している。</p> <p>(5) 学生募集体制と情報の共有</p> <p>本学は、学長を兼任している理事長がリーダーシップを発揮できる体制であること、加えて、業務の有効性や効率性の向上が図られている本学の仕組みを活用し、今年度は、学長、事務局長、事務責任者並びに入試・学生募集担当者において、毎週水曜日午前8時から学生募集会議を開き、懸案事項や方針事項で報告、承認した事項について、タイムリーに運営管理会議、教授会、入試委員会等及び、関係する学部長、学科長、専攻長等に対して、学生募集に関連する重要事項を連絡配信し、情報を共有する体制を整えた。</p> <p>それを受けて、広報、入試における窓口担当と各学科教員とも学内会議を定例的に実施し、オープンキャンパス実施報告、高校訪問報告、入試に関する報告と検討、募集状況に合わせた学科教員の対応策など、迅速に改善できる環境で業務を行っている。(5)</p>	
<p>設置計画履行状況 調査結果 (令和5年)</p>	<p>収容定員充足率が0.43倍と著しく低い。教育内容の更なる充実を図りつつ、提示された学生確保に向けた取組等を確実に実施するとともに、速やかに長期的な学生確保の見通しを客観的根拠に基づき分析した上で、より効果的な改善策を新たに講じる等、入学定員の見直しも検討すること。</p>	<p>【AC】 指摘事項 (是正)</p> <p>■入学者の状況 資料1「2023年度-2024年度 入試状況等比較」にある(表1)「2024年度湘南医療大学薬学部入学者の状況」にて分析を行った。本学薬学部の開設年度である令和3(2021)年度入学者数は34名(入学定員充足率0.26倍)、令和4(2022)年度入学者数66名(同0.5倍)、令和5(2023)年度入学者数は78名(同0.6倍、前年比118%)と増加を続けたが、令和6(2024)年度は志願者、受験者ともに減少した影響で、入学者数も62名(同0.47倍、前年比78%)と減少し、入学定員充足率も13%悪化した。この結果を受けて、同資料(表</p>	<p>履行中</p> <p>■今年度の学生募集計画 本年4月に実施した、資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果より、本学薬学部の志望理由として、「通学の利便性(13.1%)」、「専門分野への興味(11.4%)」、「教育環境・施設設備の魅力(11.4%)」、「大学での教育内容の魅力(11.4%)」が挙げられた。 この結果を踏まえ、本学薬学部入学者の多数は、「薬学、化学への興味があり、自宅からの通学可能な範囲で整備された本学薬学部が目指す薬学教育、及び教育環境の下で薬剤師を目指したい」学生であることがわかった。これを踏</p>

2) 「入試区分別 出願者数」より、特に令和6(2024)年度の出願者数は151名(前年243名、前年比62%)と減少した。また、(表2)とあわせて(表3)「入試区分別 入学者数」の結果から、前年比較で学校推薦型(指定校型を含む)及び一般選抜型の区分で出願者数と入学者数を大きく減少させる結果となった。

【入試区分ごとの出願者数、入学者数の状況】 ※〔 〕は前年、()は対比%

・総合型選抜：出願者9、入学者7 [5(180%)、4(175%)]

・学校推薦型選抜：出願者26、入学者21 [43(61%)、30(70%)]

・一般選抜：出願者72、入学者27 [120(60%)、38(71%)]

・大学入学共通テスト：出願者42、入学者7 [72(58%)、6(117%)]

このうち減少が最も大きかった入試区分は一般選抜であり、出願者72名(前年120名、対比60%)と大きく減少した。また、大学入学共通テストも出願者42名(同72名、58%)となった。

(表6)「都道府県別の出願者状況」では、令和6(2024)年度入学における出願者数は、神奈川県が119名(前年170名、-51名)、東京都が16名(同38名、-22名)、千葉県が1名(11名、-10名)であった。また、(図7)「薬学部入学者 出身高校分布図(神奈川県)」より、令和6(2024)年度入学者の分布では神奈川県東部地域に集中しており、西部・県央地区からの入学生が全くいなかったことがわかった。

一方、(表4)「資料請求者数」では、高校2年生からの資料請求数が増加している。令和6(2024)年度の資料請求数は1,453件(前年1,166件、287件増)であり、神奈川県内からは、703件(同596件、107件増)の資料請求があることから、上記(図7)の考察と照らし、より地域に密着した募集活動を徹底しなければならないことを確認した。さらに(表5)「オープンキャンパス参加者数」についても、参加者数が増加傾向にあり、今後の入試受験学年でもある高校2・1年生の参加者数が増加している。

【オープンキャンパス参加状況(高校2・1年生)】

・高校2年生：参加者137名(前年84名、53名増、対比163%)

・高校1年生：参加者91名(前年64名、27名増、対比142%)

このことから、本学薬学部への志望(入学希望)は十分あると捉え、今後、神奈川県東部に加えて、西部・県央部からの受験生の募集活動を強化することで、入学定員である130名確保に期待ができるものと考えられる。

まえて、以下の活動を実行する所存である。

1. オープンキャンパスの改善

資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果より、「本学薬学部とグループ病院施設との連携」において「臨床実習」を魅力に挙げた入学者が85%いることを受け、今年度からオープンキャンパスで「病棟薬剤師を知る」というテーマで、隣接するグループ病院のふれあい東戸塚ホスピタル薬剤部と連携し、就業している「病棟薬剤師」を招き、病棟薬剤師の役割、実務と病院薬剤部を見学するイベントを毎月1回開催し、本学薬学部の臨床教育の魅力伝えていく。

2. 高大連携の強化

資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果における志望理由に挙げられていた「専門分野への興味(11.4%)」より、高校との学びの接続に一層力を入れ、その連携授業として「出張講義」(資料4)や「公開講座」(資料5)、「大学見学・体験会」に加えて、前年度に実施した桐蔭学園高校の生徒に対して実施した「研究室シャドウイング」を模範として、研究体験を実施し、本学薬学部の薬学、化学教育研究活動の普及と地域貢献活動を行う。同様に、「湘南鎌倉地区の高校生インターンシップ」においても企画・実施し、更なる本学薬学部の認知度向上に努めていく。現在、高大連携校は4校あり、「鎌倉湘南コンソーシアム」にも加盟していることから、今後も本学薬学部の教育内容に理解を示す高校と接触し、高大連携校の締結を増やして志願者を獲得していく(資料6)。

3. 広報活動

① デジタルツール情報発信

資料3「湘南医療大学 2024年度新入生アンケート」の調査結果より、「大学での教育内容の魅力(11.4%)」より、各進学サイトを通じた情報発信が、神奈川県内外からの資料請求数を増加させるための有効なツールとして強化する。HPでは薬学部紹介動画を掲載し、実際の教育内容や受験対策、教育支援、研究紹介などを公開している。更に今年度は新規に「在校生の動画やインタビュー記事」を公開しており、継続して新しいコンテンツをHPの他、LINE、X(旧twitter)などのSNSにも同時に情報を掲載している。さらに高校生が、高校入学後に新たな大学を知る方法(スタディプラス社：2022年8月26日付記事)の上位には、「SNSやYouTube、WEB等から知る」「学校の先生から聞く」であったが、その他に「親から聞く」「友だち、知人から聞く」といった項目もあった。高校生本人だけでなく、進学相談を受ける対象となる親御様、友人・知人、高校教員など多方面に向けて本学薬学部の魅力が伝わるコンテンツを企画し、発信していく。

② 県内高校への広報活動の強化

資料1「2023年度-2024年度 入試

■教育内容の更なる充実

本学薬学部では、設置申請内容に沿ってカリキュラムを編成し、実践している。また、専任教員に変更が生じた場合は、適宜AC申請を通じて補充を行い、申請した組織内容を維持できる体制を整えている。

教員の質の向上に関わるFD活動に関しては、本報告書60ページ「その他全般的事項」に記載のとおり実施している。また、本学薬学部の教育水準を表すものとして、2024年4月に実施した本学薬学部の学生の全国模試結果を示す（資料2）。

本学薬学部の学生は、基礎系科目（受験科目：物理、化学、生物）（表7）に関し、3科目すべてで全国平均を上回り、受験した大学29校中5位の成績であった。これは、薬学部設置から、1期生に対して教員が日々の学生の実情・ニーズを把握して、1年時から徹底的に寄り添った支援を続けてきた結果、基礎科目の学修が身につけてきた結果と考えている。ただし、医療系科目（受験科目：衛生、薬理・治療、薬剤）（表8）に関しては、1科目は、全国平均を上回る結果であったが、その他2科目は全国平均以下の成績であった。

科目担当教員だけでなく学修支援チームの教員が補講等でサポートしており、今後、学生が苦手としている科目・分野を伸ばしていく。

本学薬学部は、学生間の距離も近く、講義の重点ポイントの確認、復習の機会を持っており、このような学生同士が同じ志を持って意識を高めあう環境作りも重要だと考えている。

本学の教育活動の評価を今後も外部に発信して、学生募集の一理としたい。（6）

状況等比較」の（表4）「資料請求者数」、（表6）「都道府県別の出願者状況」、（図7）「本学薬学部の居住地分布」、及び資料7「薬学部入学者 出身高校分布図（神奈川県）」より、令和6（2024）年度入学者の出身高校の位置する最寄り駅や入学者の居住地、本学薬学部が神奈川県東部に位置していることと、通学の利便性等の理由により、JR東海道線・京浜急行線・JR横浜線の3路線を中心とした神奈川県東部の沿線に、本学薬学部の入学者が集中していることがわかる。今後の広報活動として、電車広告等の掲載は上記3路線をメインに、さらなる知名度を上げるとともに本学薬学部への志願者数の増加を目指す。

また、本学薬学部の学生募集状況の課題の一つとして、現在も認知度の低さが挙げられる。その対策として、令和4（2022）年度より、神奈川県内の公立私立高校（142校）の近隣の電柱に本学薬学部の広告を継続して掲載している。毎日の通学の景色の中に「湖南医療大学」の広告を掲載することで、高校生に印象を残し、本学薬学部の認知度向上の一助となると考えている。

③公開講座・出張講義の拡充

上記にある薬学部入学生アンケート調査結果（資料3）における志望理由に挙げられていた「教育環境・施設設備の魅力（11.4%）」及び「大学での教育内容の魅力（11.4%）」より、本学薬学部の教育内容を伝える機会として、公開講座を学内での実施だけにとどまらず、各地域の会館等を使用し、神奈川県内を中心に近隣の東京都、静岡県の計20か所（9月まで）で展開する計画を立てている。また、教育内容の魅力の発信として、見込みのある高校等への出張講義を行う。特に、入学者居住地の多くを占める神奈川県内の高校を中心に実施を強化していく。（資料5）

4. 新しい入試制度の導入

①特別指定校推薦

学校推薦型の入試区分の受験生数を増やすために、令和7（2025）年度入試から特別指定校推薦を導入する。学力優秀高校、薬学部進学実績校、並びに過年度の本学薬学部への出願者数の多かった高校を合わせて133校を指定した。本入試試験で合格した入学者は、授業料が全額免除となる。この入試区分では、30名の確保を目標としている。

②特待生制度

本学薬学部の競合校の一つである横浜薬科大学では、学費を減免する特待生チャレンジ選抜を実施している。本学薬学部においても、成績優秀かつ経済的に苦しい受験生を対象に、年間授業料140万円全額または半額にする学費減免制度「特待生制度」（資料8）を令和6（2024）年度入試に導入した。結果として、定員19名に対して15名の入学者があり、定員確保に向けて一定の成果を出している。この結果を受け、薬学を学びたい意志があっても、修業年限6年間と

長く、また理系科目の字修や実験等で忙しい薬学部では、アルバイト等も難しく学ぶことを諦めてしまう高校生も多数存在すると予測されたため、令和7（2025）年度入試では、すべての入試区分において、「授業料半額免除」、「授業料全額免除」の特待生制度利用を希望できる制度を継続し、さらにこの制度による定員枠を最大50名に拡大することにした（資料9）。

③外国人留学生入試

今回の「指摘事項（是正）」に伴い、開設年度より定員充足率を達成していない状況を改善すべく、従前からの入試制度に加えて令和7（2025）年度より外国人留学生の募集を行い、5名程度の外国人留学生の確保に努める。成績上位者には特待生制度を導入し、優秀な学生の入学辞退を避けるべく定員を確保する。なお、導入にあたっては、文部科学省発信（6高参国第4号）の「外国人留学生の適切な受入れ及び在籍管理の徹底等について（通知）」を遵守し、安易に留学生を受け入れることなく、真に修学を目的とする留学生への教育指導及び適切な在籍管理を行う（資料10）。

5. 入学定員に関する検討

湘南医療大学では、平成27（2015）年の開学時から、業務改善活動の一環として毎月PDC活動を取り入れ、入学定員を充足させるために、高校訪問、高校ガイダンスへの参加、オープンキャンパス、出張授業、授業改善などを積み重ねている（資料11）。

令和6（2024）年4月入学者まで、本学薬学部の入学定員充足率は100%を達成できていないが、資料1の（表4）（表5）の結果のとおり、次年度・次々年度に大学受験を検討する学年（高校2・1年生）の本学薬学部への興味・関心は高まっているものと推察できる。

また、令和5（2023）年度の1年間における、本学薬学部に対する高校からのガイダンス参加依頼は32件であったが、すでに令和6

（2024）年4～5月の2ヶ月間で25件の依頼を受けている。これも、ガイダンス参加依頼を受けた高校で、本学薬学部への関心と期待が寄せられている客観的な数字であると推認できる（資料12）。

したがって、令和6（2024）年度入試では、出願者数・入学者数がともに減少したが、この現象は今

				<p>後も続くものではなく、令和7（2025）年度入試以降は、志願者数を増加させられることが可能と捉えられる。</p> <p>なお、資料13では、過去3年以内に入学定員を「減少」に変更した他大学の状況をまとめた。1大学を除き、<u>入学定員減の大学は、比例して志願者数も減らしていることが読み取れる。</u>これは、<u>入学定員減に伴う入試倍率の上昇を受験生が嫌がったこと、定員減による大学の経営難の印象・想像が難くないこと、</u>などが考えられる。</p> <p>以上の点から、本学薬学部の学生が、薬剤師国家試験や就職の実績を提示できる前に、入学定員を「減少」に変更してもマイナス要素が多いと判断している。</p> <p>(6)</p>
--	--	--	--	---

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5) (6)」と記載してください。
 - 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<薬学部 医療薬学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

湘南医療大学薬学部ファカルティ・ディベロップメント委員会

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

年3回実施（4月、9月、2月） 参加教員：教授3名、講師1名、助教2名

c 委員会の審議事項等

特になし

② 実施状況

a 実施内容

①大学全体におけるFD・SD研修会

本学のFD活動においては、開学のための設置申請書類作成時に開学初年度から完成年次以降のFD活動長期計画を立案し、毎年度の活動に取り組んでいる。その活動内容に関しては、大学全体として行うべきものと、学科・専攻独自で実施すべき活動内容に分けて実施している。令和5（2023）年度における本学全体としてのFD活動のテーマを「①教育力向上、②学力低迷者への支援、③休退学者防止」と定め、ふれあいグループ全体研修会における大学部会の活動の一部、および年2回実施しているふれあいグループの医療・教育研究会における大学部会の活動として、全員参加で実施している。一方、学科・専攻におけるテーマに関しては、独自に定めた研修会及び勉強会の機会を設けて学科・専攻ごとに実施している。

一方、本学のSD活動では、2ヶ月毎に全体研修会を行っており、教職員の資質向上を図っている。また、原則年2回、学校法人の設立母体である医療法人グループと合同で、医療・教育研究会を開催しており、教職員以外の医療関係者やグループ内の専門学校職員も参加し、臨床現場の意見や他の教育機関の手法も大学運営に反映できるように取り組んでいる。これらの研修会には、毎回全事務職員が参加し、持ち回りで事例研究等の発表や、グループワークを行っている。毎回の研修会後は報告書を作成・提出している。

②薬学部独自のFD研修会

1. 研修会（神奈川県薬剤師会 常任理事 久保田先生からの薬局実務実習の実体講義）

学生の態度教育、注意すべき点、薬局業務の重要点、基礎系で重要な知識、臨床で確実に覚えるべき点などをまとめて教員が学び、学年ごとの指導に生かしている。

・実務実習事前学習指導において 学生指導の結果、学生の80%以上がS評価

・薬学部1年 基礎系本試験合格率 2021年度 87.9%
2022年度 88.9%

2023年度 89.6%

・薬学部3年 本試験合格率 2022年度 77.6%（2年時）

2023年度 78.3%（1期生の意識の向上あり）

FD研修によって、教員が新たな現場の教育を知ること、教育から学生のモチベーション向上、基礎と臨床の重要点の教育につながるとともに、第三者評価における教員の学びとして記録している。

2. 薬学教育モデル・コア・カリキュラム改定について（帝京大学、小佐野博史先生）

令和4（2022）年度改訂のカリキュラムの重要点と、国家試験の傾向、教育の対策、臨床教育の重要性、CBT講義や演習の対策などの講演があり、実際に3年生の教育や4年生の薬物治療Ⅰ、Ⅱの授業において疾患教育、検査について強化した教育内容を実践した。また、基礎の生化学などの強化においても疾患につながる内容を取り入れている。

3. 授業評価アンケートに基づく分析

令和5（2023）年度の授業評価アンケートの総合評価平均は90点（100点満点中）。全体的に学生の満足度は高かった。項目別にみると、板書・資料：94点、図の大きさ：96点、図の内容：96点、授業の進行度：86点、授業の内容：84点 という結果である。以上の結果から、「授業の進行」「授業の内容」については改善の必要があり、学生の意見を反映するために、学生教員が意見交換をしやすい方法として、2024年度のFD研修にはアクティブラーニング形式の講義について学ぶ計画を立てている。

b 実施方法

①大学全体におけるFD・SD研修会

- ・【FD】自己点検・評価の厳格化～自己点検・評価の結果：教育の質の改善・向上の状況～
- ・【FD】成績低迷者への教育と生活指導
- ・【FD】休退学者ゼロへの支援策（分析と対策）
- ・【SD】PDC ～結果分析・評価と目標・行動～
- ・【SD】学生募集・入学定員確保（総合型選抜・学校推薦型入試の状況を踏まえた今後の対策）

②薬学部独自のFD・SD研修会

- ・【FD】OSCE/CBT対策指導状況
- ・【FD】授業方法改善（1）学生が理解しやすい授業を行うためには（好事例発表）
- ・【FD】授業方法改善（2）学生が理解しやすい授業を行うためには（好事例発表）
- ・【FD】学修成果の把握～ポートフォリオの活用について～
- ・【FD】学修支援（高大接続）～入学前教育・特別教育活動の実施状況と課題～
- ・【FD】薬学部の教育サポートプログラム
入学-卒業（一貫型4Sプログラム）：Sドリル、Sカルテ、Sサポート、Sシステム
高校リメディアル教育・基礎学力の定着～講義・補講・定期試験・実習サポート
- ・【FD】薬学部4年次生 OSCE, CBT対策ガイダンス、履修科目の実践、問題演習、模試対策、集中講義など
- ・【FD】効果的なチューター活動（学修状況や学修方法、試験・実習等に向けたアドバイス）
- ・【FD】授業評価の結果を活かした授業改善、教育活動の改善への活用、学士課程教育の質的転換～学生の主体性を伸ばす能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換～
- ・【外部FD】学生がやる気をなくす瞬間
- ・【外部FD】薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂のポイント
- ・【外部FD】実務実習の受け入れの現状と指導

c 開催状況（教員の参加状況含む）

①大学全体におけるFD・SD研修会【令和5年度実施分】

- ・4月26日（水）、6月19日（日）、8月23日（水）、10月25日（水）、12月20日（水）、2月18日（日） の計6回
- ・参加状況：教員118名、職員26名

②薬学部独自のFD研修会【令和5年度実施分】

- ・5月24日（水）、7月24日（月）、10月25日（水）、1月31日（水） の計4回
- ・参加状況：教員41名、職員5名

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

(記入例)

- ・ 地域との連携
- ・ 産業界との連携

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学の使命・目的及び教育目的は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念に基づいた個性・特色を反映し、学則に「高度な知識と技術とともに、豊かな人間性を育み、創造的かつ実践的な教育研究を通じて、地域社会に貢献する」と、明文化している。使命・目的は、学生便覧やホームページ等を通して学内外に周知している。第一期中長期計画に沿って、令和3年4月に薬学部を設置し、令和3年度は34名、令和4年度は69名(うち3名は2年次編入)、令和5年度は79名(うち1名は2年次編入)、令和6年度は62名の入学生を受け入れた。使命・目的の文言は、ディプロマ・ポリシーに反映され、順次カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに反映され、その使命・目的を果たしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・ 令和6年10月31日 公表予定

b 公表方法

- ・ 大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 令和3年11月に評価機関(日本高等教育評価機構)の評価を実施し、適合の判定を受けた。
- ・ 令和10年に評価機関(薬学教育評価機構)を受審予定。

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。